

団委員研修所 所員用ハンドブック

令和4年度版



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

目 次

団委員研修所について	1
日程表	3
セッションの目標・指導上のねらい	4
「課題研修」課題	6
開所式プログラム	7
§ 1 団委員研修所について	10
§ 2 スカウト運動	11
§ 3 団の組織	13
§ 4 育成会と団委員会	15
§ 5 団委員会の組織と機能	17
§ 6 団委員会の事務と業務	18
§ 7 隊指導者の養成と支援	20
§ 8 団会議	22
§ 9 スカウトの進級と団委員会	24
§ 10 安全計画	26
§ 11 安全対策と危機管理	27
§ 12 隊を支援する方法	29
§ 13 団委員会と団会議の連携	31
§ 14 団の年間計画	33
§ 15 スカウト募集	35
§ 16 団への支援	37
閉所式プログラム	39

ハンドアウト

§ 3	スカウト達の身近で支援する成人達	4 2
§ 4	育成会会則の例	4 2
§ 6	団会計収支決算書（例）	4 3
§ 6	団会計貸借対照表（例）	4 4
§ 6	団会計収支予算書（例）	4 4
§ 6	団財産目録（例）	4 5
§ 8	団会議レジュメ・団会議シナリオ	4 5
§ 8	団会議・団委員会ワークシート	4 7
§ 9	考査面接一覧	4 7
§ 9	進級面接申請書（例）	4 8
§ 9	団面接の一例	4 8
§ 9	進級面接質問の一例	4 9
§ 9	面接手順（一例）	5 0
§ 1 0	安全計画	5 1
§ 1 1	事故対策図	5 2
§ 1 2	読図ハイキング実施要綱（案）	5 2
§ 1 2	ワークシート「ハイキング支援計画」	5 3
§ 1 3	団委員支援計画ワークシート	5 3
§ 1 4	前年度の団事業の状況及び問題点	5 4
§ 1 4	団問題解決・年間計画ワークシート①～③	5 4
§ 1 5	スカウト募集検討ワークシート	5 6
§ 1 5	スカウト募集検討例	5 6

団委員研修所について

1. 団委員研修所の目的

団委員研修所は、導入訓練課程の訓練を修了した者を対象として開設し、参加者が団指導者としての任務を理解し、団の管理と運営の能力を高めることを目的とする。

(教育規程 8-3-6)

2. 団委員研修所の目標

1. 団の組織と運営の概要について理解する。
2. 団委員会、団会議の機能と連携について理解する。
3. 各隊活動への支援について理解する。
4. 団委員会が行う管理業務について理解する。
5. 団を取り巻く地域、関連組織との連携について理解する。
6. 団委員研修所の進め方について知る。
7. スカウト運動の基本原則について理解する。

3. コースの運営・展開のポイント

コースの運営については「5. コースの運営方法」をよく理解した上、参加者の状況を把握し、学習環境を整えるよう留意する。

当コース策定の基本思想は次の通りである。

- (1) 団および周辺組織の役割と機能を理解し、団委員として果たすべき役割について理解させることを最大の目標とする。
- (2) 団委員(会)が行うべき日常業務の基本的な方法と考え方を理解させるよう展開する。
- (3) なるべく実務的に理解させるよう展開する。

4. スタッフの編成

団委員研修所の標準的スタッフは、以下の役務と人数による編成とする。

所長	1人
主任所員	1人
セッション担当	若干名
Q M	1人

*グループ担当は特に置かない。作業などでその必要が生じたときは、セッションの担当以外のスタッフが適宜対応する。

*生活担当、健康・安全担当も上記スタッフで兼務する。

5. コースの運営方法

- (1) 2泊3日の宿舍泊により行う。
- (2) コース期間中の食事は参加者、スタッフともに支給とし、開設担当で対応する。
- (3) 成人の学習効果をあげ、参加者が相互に影響を与え合い、それぞれの持つ力を充分発揮できるよう、少人数のグループに分けて学習面および生活面の単位とする。
- (4) 1グループは4～6人程度とする。
- (5) グループ編成にあたっては、参加者の年齢・性別・経験等を考慮する。

6. 運営上の留意点

- (1) コースの性格上、年輩の参加者が多いことが予想されるため、休憩時間、セッションの展開速度などに留意する。
- (2) 団委員研修所は室内での講義が中心となるため、会場の選定にあたってはリフレッシュのできる場所等の確保など、学習環境に配慮する必要がある。
- (3) 使用施設によっては種々のルールや制限があるので、管理者と事前に充分調整を図り、コース運営に支障の無いようにするとともに、コース参加者にオリエンテーション等で十分に説明する。
- (4) 使用施設によっては他の利用者もいるので、スカウト運動の指導者という立場を充分意識し、迷惑をかけない利用を心掛ける。

団委員研修所 基本日程表

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22					
第 1 日 新			受付 G編成 自主点検	開 委 式	§ 1 団委員 研修所 について	§ 2 スカウト運動	グ ル ー プ 食 タ イ ム	§ 3 団の組織	休 憩	§ 4 育成会と 団委員会	休 憩	§ 5 団委員会の 組織と機能	休 憩	§ 6 団委員会の 事務と業務	休 憩	§ 7 隊指導者の 養成と支援	休 憩 チ ェ ッ ク イ ン	夕食 団会議	今 日 の 話 題	消 灯	
					30	60	45	60	5	50	5	60	5	90	5	60	5	50	90	30	
第 2 日 新		朝 食	朝 礼	§ 9 スカウトの進 展と団委員 会	休 憩	§ 10 安全計画	§ 11 安全対策と 危機管理	昼 食	休 憩	§ 12 隊を支援する 方法	休 憩	§ 13 団委員会と 団会議の連携	休 憩	§ 14 団の年間計画	夕 食	今 日 の 話 題				消 灯	
		30	30	60	5	60	120	45	5	90	5	150	5	140	50	30					
第 3 日		朝 食	朝 礼	§ 15 スカウト募集	休 憩	§ 16 団への支援	質 疑 心 答	閉 会 式													
		30	30	80	10	60	30	30													

セッションの目標・指導上のねらい

セッション名	目 標	指導上のねらい
1. 団委員研修所 について (30分)	1. 団委員研修所の目的と目標について理解する。 2. 団委員研修所の運営について理解する。	1. 団委員研修所の目的と目標について理解させ、参加意欲を高める。 2. 団委員研修所の運営は学習面、生活面をグループ単位で実施することを理解させる。 3. オリエンテーションを行い、生活面の留意点などを理解させる。
2. スカウト運動 (60分)	1. スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」について理解する。 2. 「ちかい」と「おきて」について理解する。 3. 「セーフ・フロム・ハーム」について理解する。	1. スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」とそれぞれの関わりを理解させる。 2. スカウトへの直接的な訓育・教育は隊指導者の役割であり、団指導者は主に隊指導者への支援・援助という役割を持って、スカウトの成長に貢献することを理解させる。 3. 日本におけるスカウト運動も世界スカウト機構(WOSM)によるスカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」に則って展開されていることを理解させる。 4. 行動規範である「おきて」を守り実践することが「ちかい」の実行につながることを理解させる。 5. 「おきて」の実践が活動の活性化につながることを理解させる。 6. 「セーフ・フロム・ハーム」の内容と取り組み方法について理解させる。
3. 団の組織 (60分)	1. 団の位置付けと団組織について理解する。 2. 団の運営の概要について理解する。 3. 団と育成会の関係について理解する。	1. 我が国のスカウト運動における団の位置付けを理解させる。 2. 団運営の必要性について理解させる。 3. 育成会が、団の経営(財政)母体であることを理解させる。
4. 育成会と 団委員会 (50分)	1. 育成会の組織について理解する。 2. 育成会の機能と役割について理解する。 3. 育成会と団委員会の関係について理解する	1. 育成会の設立がスカウト教育の第一条件であることを理解させる。 2. 設立過程と性格の違いによる育成会の種類について理解させる。 3. 育成会の任務について理解させる。 4. 団委員会の構成における、育成会と団委員会の関係について理解させる。 5. 自団の育成会と団委員会の関係について、その現状を認識させる。
5. 団委員会の 組織と機能 (60分)	1. 団委員会の機能と役割について理解する。 2. 団委員(長)の役割と任務について理解する。	1. 団委員会の機能と役割について理解させる。 2. 団委員長、副団委員長、団委員の任務について理解させる。
6. 団委員会の 事務と業務 (90分)	1. 団会計処理の基本事項を理解する。 2. 団の備品、資材管理の基本事項を理解する。 3. 入退団管理事務、登録業務の基本事項を理解する。 4. 通信連絡事務について理解する。	1. 団委員会が行うべき資金管理の考え方と方法について理解させる。 2. 団委員会が行うべき備品、資材管理の考え方と方法について理解させる。 3. 入退団管理事務、登録業務とその仕組みについて理解させる。 4. 会場借上げ手続き、行政等への補助金の手続きなど、日常の手続き業務は多岐にわたるものがあることを理解させる。
7. 隊指導者の 養成と支援 (60分)	1. 隊指導者の選任と養成は、団委員会の責任であることを理解する。 2. 隊指導者と団委員会の関係について理解する。 3. 隊指導者の訓練体系について、概要を理解する。 4. 隊指導者への任務中支援について理解する。	1. スカウト運動の成人に関する方針の各ステップと関連付けて理解させる。 2. 隊活動の全般を指導する責任は隊長にあり、団委員会は直接たずさわらず、団委員長は隊長に責任をゆだねるものであることを理解させる。 3. 団委員会は、隊指導者の任免、支援、養成について、大きな権限と責任を持つものであることを理解させる。 4. 隊指導者の養成のために、指導者訓練体系を知っておく必要があることを理解させる 5. 隊指導者に対する任務中の支援(インサービス・サポート)が自己研修意欲の向上につながることを理解させる。
8. 団会議 (90分)	1. 団会議の機能と役割について理解する。	1. 団会議の構成と、会議の主旨、特に団のスカウト教育について推進状況、プログラム調整など重要事項を協議する場であることを理解させる。 2. 団会議の標準的な進め方、内容を理解させる。 3. 各部門の指導者に支援を行うには、様々な資源の活用が必要であることと、その方法を理解させる。

<p>9. スカウトの進級と団委員会 (60分)</p>	<p>1. 進級に関する団面接について理解する。 2. 進級に関する事務手続きについて理解する。 3. スカウトへの記章授与について理解する。</p>	<p>1. スカウトの進級に関わって行われる団面接の意義と手順について理解させる。 2. 進級に関する事務手続き、特に地区面接、県連盟面接を必要とする進級について理解させる。 3. 記章授与はスカウトにとって大切な場面であることを理解させると共に、団委員会としてどのような配慮が必要かを理解させる。</p>
<p>10. 安全計画 (60分)</p>	<p>1. プログラムを元に安全計画を立案できる。 2. 安全計画の評価と運用ができる。</p>	<p>1. プログラム計画からプログラム実施までのプロセスにおいて、同時進行で安全計画が立案され実行されていくことを理解させる。 2. 安全計画の立案は独立したものではなく、隊での計画策定→団会議での発表と支援要請→団委員会での支援計画の立案→実施承認→実施時の対策→実施後の評価・反省・改善策の策定の手順を辿ることを理解させる。 3. スカウト活動における安全確保は団全体で取り組む作業であることを理解させる。 4. 団で判断に困ったとき等はコミッショナーの支援を得ることも必要であることを理解させる。</p>
<p>11. 安全対策と危機管理 (120分)</p>	<p>1. 各隊プログラム活動に対する安全教育、安全対策、安全管理について理解する。 2. 団運営における危機管理の構築と運用について理解する。 3. 危機管理における保護者への対応、プレスへの対応について知る。 4. そなえよつねに共済と賠償責任保険について知る。</p>	<p>1. 安全教育と安全対策、安全管理について理解させる。特にそれぞれの主務者を明確にする。 2. 各隊が実施する安全教育について団委員会として隊指導者を支援する必要性と方法を理解させる。 3. 各隊プログラムにおける安全対策への人的・物的な協力も隊運営への重要な支援であることを理解させる。 4. 安全教育と安全対策が効果的に実施されるように努めることが団委員会の任務であることを理解させる。 5. 危機管理にはスカウト保護者への対応のみならず、プレス等組織外への対応も含まれていることを知らせる。 6. 事故等への対応、各種保険、組織防衛の方法について理解させる。 7. そなえよつねに共済と賠償責任保険については概要のみを知らせる。</p>
<p>12. 隊を支援する方法 (90分)</p>	<p>1. 隊指導者の任務の概要について知る。 2. 隊活動への財政的支援について理解する。 3. 隊指導者と団会議、団委員会の連携と各隊プログラム活動に対する支援について理解する。</p>	<p>1. 隊指導者、特に隊長の任務について概要を知らせる。 2. 活動資金等の支援について理解させる。 3. 各隊のプログラム実施時に団委員会に求められると思われる各種支援（キャンプ時の輸送、活動場所の提供、資材・備品の便宜供与等）について理解させる。</p>
<p>13. 団委員会と団会議の連携 (150分)</p>	<p>1. 団委員会と団会議の関係について理解する。 2. 隊の支援計画を策定できる。</p>	<p>1. 団会議での内容をもとに団委員会を体験することによって、それぞれの会議が果たす機能や運営の方法、隊活動への支援の方法を理解させる。 2. 団委員会後の活動計画の立案と実施ができるようにする。</p>
<p>14. 団の年間計画 (140分)</p>	<p>1. 団の年間計画が立案できる。</p>	<p>1. 団の年間計画立案のねらいについて理解させる。 2. 団の中長期計画に基づく課題と方法を考えさせる。 3. 隊への支援計画作業を体験させる。 4. ただ単にスケジュールを割り振るだけではなく、高度な調整作業が必要であることを理解させる。 5. 様々なリソースを活用する方法があることを知らせる。</p>
<p>15. スカウト募集 (80分)</p>	<p>1. スカウト募集活動について理解する。</p>	<p>1. 団の運営面やスカウトの教育面において、適正な人数の隊を維持することが重要であることを認識させた上で、定期的なスカウト募集の必要性を理解させる。 2. スカウト募集は団委員会の責任において行われることを理解させる。 3. スカウト募集の考え方と方法について理解させる。 4. スカウト募集は隊指導者の協力なくしてはできないことを理解させる。</p>
<p>16. 団への支援 (60分)</p>	<p>1. 都道府県連盟、地区、隣接団との連携について理解する。 2. 行政、地域団体、関連諸機関との連携が団委員会の重要な責務であることを理解する。</p>	<p>1. 地区や県連盟の組織や運営への積極的な参画が必要であることを理解させる。 2. 隣接団との有効な連携は、団にとって有益であることを理解させる。 3. 行政、地域団体、関連諸機関との連携は、団委員会の重要な責務であり、これらの組織等から支援を受けることができること、また支援を受けるための留意点等を理解させる。 4. 安全対策、安全管理の実施にあたってはコミッショナーの支援を受けることも必要であることを理解させる。</p>

団委員研修所「課題研修」

課 題

課題1.

日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

課題2.

日本連盟教育規程「第1章 一般原則」、「第2章 加盟登録」、「第3章 団」、「第4章 都道府県連盟」「第5章 地区」、「第7章 教育の方法(7-33~7-43)」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

課題3.

ボーイスカウト隊リーダーハンドブック「第3部 隊の運営」の「8章 隊指導者」、「9章 隊の運営」、「10章 隊を支える組織」を熟読し、指導を受けた内容を記述してください。

この「課題研修」の履修認定者は、日本連盟リーダートレーナーまたは副リーダートレーナーです。

1. 開式のことば
2. 国旗儀礼（国旗掲揚）
3. 国歌斉唱
4. 主催者挨拶、所長紹介
5. 所長挨拶
6. 所員紹介
7. 来賓挨拶
8. 来賓紹介
9. 連盟歌斉唱
10. 閉式のことば

ねらい

- ・ 参加者に本コースへの積極的参加を再確認させ、学習意欲を高める場とする。

留意点

- ・ 団委員研修所を始めるのに相応しい場所を選定する。
- ・ 参加者に、研修に対する意欲と安心感を持たせるよう、挨拶や雰囲気づくりに留意する。

準備品

- ・ 国旗一式
- ・ 開所式次第
- ・ 参加者、来賓、スタッフ等名簿

セッションの運営

§ 1 団委員研修所について

第1日 10:30～11:00 (30分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団委員研修所の目的と目標について理解する。
2. 団委員研修所の運営について理解する。

指導上のねらい

1. 団委員研修所の目的と目標について理解させ、参加意欲を高める。
2. 団委員研修所の運営は学習面、生活面をグループ単位で実施することを理解させる。
3. オリエンテーションを行い、生活面の留意点などを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ 日程表
- ・ 日本連盟規程集

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 団委員研修所の目的と目標を明確に示す。
- (2) 団委員研修所の運営方法について説明し、確認する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 歓迎の言葉
- (2) スタッフの紹介
- (3) 団委員研修所の目的と目標
 - ①教育規程 第8章 8-3-10 (訓練機関(集合訓練)の指導要員の資格と選任)
 - ②教育規程 第8章 8-3-6、8-13、8-13-3 (団委員研修所)
 - ③教育規程 第9章 9-10-1、9-11-1 (指導者の記章)
- (4) 団委員研修所の運営方法
- (5) 留意点
 - ①所長が担当する。
 - ②アイスブレイキングゲームを取り入れるなど、リラックス出来る雰囲気セッションを展開してください。
 - ③この研修所の性格上、年輩の参加者が比較的多くなるため、展開に当たっては、随時休憩を設け、展開速度にも十分留意してください。(以下全てのセッションに共通します。)

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 質疑応答を行い、運営方法についての参加者の疑問を解決する。

§ 2 スカウト運動

第1日 11:00～12:00 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」について理解する。
2. 「ちかい」と「おきて」について理解する。
3. 「セーフ・フロム・ハーム」について理解する。

指導上のねらい

1. スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」とそれぞれの関わりを理解させる。
2. スカウト運動への直接的な訓育・教育は隊指導者の役割であり、団指導者は主に隊指導者への支援・援助という役割を持って、スカウトの成長に貢献することを理解させる。
3. 日本におけるスカウト運動も世界スカウト機構（WOSM）によるスカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」に則って展開されていることを理解させる。
4. 行動規範である「おきて」を守り実践することが「ちかい」の実行につながることを理解させる。
5. 「おきて」の実践が活動の活性化につながることを理解させる。
6. 「セーフ・フロム・ハーム」の内容と取り組み方法について理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・世界スカウト機構規約
- ・日本連盟規程集
- ・日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望
 - (1) スカウト運動の定義を確認する。
 - (2) スカウト運動の目的を確認する。
 - (3) スカウト運動の原理を確認する。
 - (4) スカウト運動の方法を確認する。
 - (5) 日本連盟が制定する「目的と基本方針」も世界スカウト機構規約に基づいていることを確認する。
2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること
 - (1) スカウト運動の「定義」「目的」「方法」等
 - ①世界スカウト機構規約第1章第1条 (定義・目的)
 - ②世界スカウト機構規約第1章第2条 (原理)
 - ③世界スカウト機構規約第1章第3条 (方法)
 - ④定款第3条 (目的)
 - ⑤教育規程第1章 1-4 (基本方針)
 - (2) 留意点
 - ①スカウト運動の創始と発展について概略を説明し、どのようにして成人指導者の援助が始まり組織化され、教育のための規則が整備されていったかについて触れてください。
 - ②資料として「世界スカウト機構規約」を活用するが、ただ単にそれを読み上げるのではなく「定義」「目的」「原理」「方法」のそれぞれを関連づけさせて、かつ具体的な言葉で明確に説明してください。

- ③スカウト運動の「定義」「目的」「原理」「方法」と日本連盟の定める「目的と基本方針」の関連も説明してください。
 - ④「ちかい」と「おきて」は、原理に基づいて表現し、定められている。
 - ⑤「おきて」は、自らの生活行動を律する行動規範である。
 - ⑥「おきて」の実践が「ちかい」の実行につながることを伝える。
- (3) 「セーフ・フロム・ハーム」について
- ①「セーフ・フロム・ハーム」の内容を理解させる。
 - ②登録前研修について知らせる。
 - ③「セーフ・フロム・ハーム」セミナーについて知らせる。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) スカウト運動は、青少年が個人として、社会の一員として身体的・知的・情緒的・社会的・精神的資質を充分発達させるよう援助し、貢献することを目的としている。
- (2) 各国（または地域）連盟は、基本原則を受容して活動の基盤としている。ゆえにスカウト運動は、世界中で同じ目的達成に向けて活動を展開している。
- (3) 隊指導者、団指導者はスカウト運動の「**世界スカウト機構規約**」及び日本連盟の「目的と基本方針」をよく理解し、これを受容した上で、純正な団の発展を図り、青少年の成長に寄与出来るよう努力をお願いしたい。

§ 3 団の組織

第1日 12:45～13:45 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団の位置付けと団組織について理解する。
2. 団の運営の概要について理解する。
3. 団と育成会の関係について理解する。

指導上のねらい

1. 我が国のスカウト運動における団の位置付けを理解させる。
2. 団運営の必要性について理解させる。
3. 育成会が、団の経営（**財政**）母体であることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト「スカウト達の身近で支援する成人達」(P 42参照)
- ・日本連盟規程集
- ・日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 団の位置付け、目的について確認する。
- (2) 団委員会、団会議の構成について確認する。
- (3) 育成会の組織・役割・任務について確認する。
- (4) 団運営は、スカウトの活動を支援するために行われることを確認する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

(1) 団の組織、団の運営

- ①教育規程 第3章 3-1、2 (総則)
- ②教育規程 第3章 3-3～6 (育成会)
- ③教育規程 第3章 3-7～14 (団委員会)
- ④教育規程 第3章 3-15 (団会議)
- ⑤教育規程 第3章 3-16～26 (ビーバースカウト隊)
- ⑥教育規程 第3章 3-27～45 (カブスカウト隊)
- ⑦教育規程 第3章 3-46～62 (ボーイスカウト隊)
- ⑧教育規程 第3章 3-63～74 (ベンチャースカウト隊)
- ⑨教育規程 第3章 3-75～82 (ローバースカウト隊)
- ⑩教育規程 第3章 3-83、84 (在外日本スカウト団・隊)
- ⑪**ハンドアウト 団の組織／スカウト達の身近で支援する成人達**
)

(2) 留意点

- ①団組織は、スカウトにスカウト教育を実施する最大の単位（基本組織）であることを明確に説明してください。これは、以下のことによります。
 - ・単一組織内で、各年齢層にわたるスカウト活動が長期間実施できること。
 - ・異なる年齢層の仲間と接する機会を与え、進歩・上進の意欲を高めることができる。
 - ・長期にわたる一貫した計画が立てやすい。
 - ・幅広く成人資源の協力が得られやすい。
 - ・地域社会の広い範囲から支援を受けやすい。

- ②育成会が、団を設立し、その経営（財政）母体であることを示し、団の存在の基盤であることを確認してください。（教育規程 3-4（育成会の任務）：§ 4「育成会と団委員会」でも再確認します。）
- ③育成会の目的は、団の発展と維持をはかることにあり、その資金を確保することが大切な任務であり、その構成者は、保護者をはじめ、教育、宗教、社会奉仕、体育、商工関係その他地域の関係者であるが、それぞれの団においては、さまざまな態様があることを確認してください。
- ④団運営は、スカウト活動を支援するために行われており「団委員」は、隊活動や隊指導者を支援するために団を運営する指導者であり、「隊指導者」は、スカウトに対して直接教育訓練を行う成人指導者であることを押さえてください。
- ⑤団は、スカウト教育を実施する単位である隊と、団の運営に責任を持つ団委員会で構成されており、団委員会がスカウトに対して直接教育訓練にあたるものではないことを確認してください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 地域社会からスカウト運動への信頼を確保するために、団の存続は、最も重要な事項である。
- (2) 団の永続的な発展のためにも、隊においては正しいスカウト活動が実施され、また団においては正しい運営がなされることが必要である。

§ 4 育成会と団委員会

第1日 13:50～14:40 (50分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 育成会の組織について理解する。
2. 育成会の機能と役割について理解する。
3. 育成会と団委員会の関係について理解する。

指導上のねらい

1. 育成会の設立がスカウト教育の第一条件であることを理解させる。
2. 設立過程と性格の違いによる育成会の種類について理解させる。
3. 育成会の任務について理解させる。
4. 団委員会の構成における、育成会と団委員会の関係について理解させる。
5. 自団の育成会と団委員会の関係について、その現状を認識させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト「育成会会則の例」 (P 4 2 - 4 3 参照)
- ・育成会総会次第の例

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 団や隊の存在は、育成会の存在が基盤となっていること。
- (2) 育成会の性格や母体となっている個人・団体について。(現状や例示による)
- (3) 育成会会員や会費、団への支援内容。(具体的な例示など)
- (4) 自団における育成会と、団との関係の現状の確認。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 育成会の組織と機能・役割
 - ①教育規程 第3章 3-3 (設立)、3-4 (任務)、3-5 (会則)、3-6 (会議)
 - ②教育規程 第3章 3-8 (団委員会の構成)
 - ③育成会会則、育成会総会次第の例示
- (2) 留意点
 - ①自団について、育成会が(実体的に)あるか、その性格や団との具体的な関わりについて自分(参加者)がどの程度知っているか、などの現状を認識できるようにしてください。
 - ②参加者の団の母体である育成会は、性格や活動実態が多種多様であると考えられるため、具体的な例を挙げて、多様性が理解できるようにしてください。
 - ③育成会と団の関係は様々な実体があると考えられますが、教育規程 3-8-①及び③の規程(団委員会の構成)により、団の存在の基盤であることを押さえてください。
 - ④自団の育成会について具体的な認識が低い場合には、育成会の会則、あるいは育成会総会の内容などの例を具体的に示して、育成会の組織や機能について理解を深めさせてください。
 - ⑤「育成会を改善・発展させなければ」という思いを参加者が持つのは当然だと考えられますが、それはあくまで「育成会員」としての立場からの捕らえ方であり、団委員会の主体的な責務ではないことに留意してください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 育成会は、スカウト教育を維持し発展させるという目的の下に設立されている。
- (2) 団委員会（団）とは、育成会によって選任され、スカウト教育の実施を委託された組織である。
- (3) 保護者や地域の個人・団体が、地域の青少年をスカウト教育活動により育成しようと願う組織が育成会である。（保護者会は別に組織される場合もある。）
- (4) 育成会の構成や運営は様々であり、それは総会によって決定・改正されることになるが、その目的や任務は、運動の趣旨から外れることはできない。

§ 5 団委員会の組織と機能

第1日 14:45～15:45 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団委員会の機能と役割について理解する。
2. 団委員（長）の役割と任務について**理解する**。

指導上のねらい

1. 団委員会の機能と役割について理解させる。
2. 団委員長、副団委員長、団委員の任務について**理解させる**。

準備品(資材・資料)

- ・ § 3 ハンドアウト「スカウト達の身近で支援する成人達」 (P 4 2 参照)
- ・ 日本連盟規程集
- ・ 日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 団委員会の機能・任務について確認する。
- (2) 団会議の組織について確認する。
- (3) 団委員（長）の役割と任務について確認する。
- (4) 団委員（長）が、その職責を果たすための訓練について確認する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 団委員会の機能と役割
 - ①教育規程 第3章 3-7、8、9 (団委員会の構成、任務等)
 - ②教育規程 第3章 3-15 (団会議)
- (2) 団委員（長）の役割と任務
 - ①教育規程 第3章 3-10、11、12、13 (団委員長の選任及び任期・資格、任務等)
 - ②教育規程 第3章 3-14 (訓練への参加)
- (3) 留意点
 - ①団委員会の任務が、各隊の活動を支援し、活発化し、永続させる全ての責任を持つことを確認してください。
 - ②**団委員会の機能・役割・仕事内容を具体的に伝え、イメージさせることで、認識させてください。**
 - ③育成会が、スカウト保護者などの**育成会員**から団委員を選任し、団委員会を構成していることを押さえてください。
 - ④育成会の代表者は、その職責上団委員となることを確認してください。
 - ⑤団委員長、副団委員長は団委員の互選によるものであることを確認してください。
 - ⑥団委員長は、スカウト運動全般に通りの知識を持っていることが必要であることを理解させてください。
 - ⑦団委員長は、団委員会・団会議の主宰者として活動するために、できれば1年以上の隊長の経験者であることが望ましいことを伝えてください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 団の組織と機能を活用するためにも、団内の成人指導者が相互に役割を理解し、協力することが大切である。
- (2) 団の維持発展のためには、スカウト運動の基本原則（「定義」「目的」「原理」「方法」）を理解し、団内の人材開発に努めることが必要である。

§ 6 団委員会の事務と業務

第1日15:50～16:20(90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団会計処理の基本事項を理解する。
2. 団の備品、資材管理の基本事項を理解する。
3. 入退団管理事務、登録業務の基本事項を理解する。
4. 通信連絡事務について理解する。

指導上のねらい

1. 団委員会が行うべき資金管理の考え方と方法について理解させる。
2. 団委員会が行うべき備品、資材管理の考え方と方法について理解させる。
3. 入退団管理、登録業務とその仕組みについて理解させる。
4. 会場借り上げ手続き、行政への補助金手続きなど、日常の手続き業務は多岐にわたるものがあることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト①「団会計収支決算書(例)」(P43参照)
- ・ハンドアウト②「団会計貸借対照表(例)」(P44参照)
- ・ハンドアウト③「団会計収支予算書(例)」(P44参照)
- ・ハンドアウト④「団財産目録(例)」(P45参照)
- ・日本連盟「加盟登録事務処理マニュアル共通-団-」(日本連盟ホームページ参照)
「加盟登録事務関連」ページ：https://www.scout.or.jp/member/application_system/

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 団会計の仕組みと資金管理の例(ハンドアウト)を示し、基本的な考え方と方法を理解させる。
- (2) 団の備品、資材の管理と運用の例(ハンドアウト)を示し、このことの重要性を確認する。
- (3) 入退団管理と登録業務について説明する。
- (4) 各種通信事務について知らせる。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

(1) 団委員会の任務と業務(会計、事務処理)

- ①定款 第3章 15条、16条、17条、18条(会員の種別等、加入、資格喪失)
- ②教育規程 第2章 2-2、4、5、6、7(総則:加盟登録の原則等)
- ③教育規程 第2章 2-8、9、10(加盟登録の申請)
- ④教育規程 第2章 2-11、12、13、14(加盟登録の審査)
- ⑤教育規程 第2章 2-15、16、17(加盟登録時期及び登録料)
- ⑥教育規程 第2章 2-18、19、20、21(加盟登録の承認)
- ⑦教育規程 第3章 3-9(団委員会の任務)

(2) 留意点

- ①団委員会には、資金、備品などの管理と運用の責務があることを理解させてください。
- ②指導者、スカウトの入退団管理、登録業務等の各種事務手続きがあり、これを正しく行わないと団の組織にもめ事が起こったり、地域の信頼を失うなど、団の維持運営に大きな影響が出ることを理解させてください。

- ③団によって資金の流れや備品の管理方法、資産の状況が違うので、主に基本事項として貸借対照表、財産目録などのハンドアウトを提供して説明してください。特に、保護者、育成団体などから信頼される団運営のためには「明朗性」、「正確性」の担保について責任と義務を迫ることを理解させてください。
- ④登録業務については、日本連盟のコンピュータ処理の方法、仕組みについて概要を説明してください。
- ⑤地区・県連盟の加盟登録審査の概要について知らせてください。
- ⑥入団・退団の管理については、特に隊長との緊密な連絡が必要であることを確認してください。
- ⑦直接的な業務は、それぞれの団委員が役務分担により担当するが、団委員長の視点で、それぞれの業務について確認・理解させるようにしてください。
- ⑧会計処理に関する参考資料（例）を配布し、適正な会計処理を行うよう促してください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 事務処理は迅速、正確に行うことが、団の適正な運用につながる。
- (2) 会計等は、明朗にし、必ず育成会総会で報告する。
- (3) 備品、資材の管理運用は団委員会の責任において行われる。隊備品であっても最終責任は団委員会にある。ただし、隊備品は、隊長の責任においてスカウト教育の一環として行われる場合があるので、隊長との打ち合わせが必要である。
- (4) 入退団の管理は、正確かつ迅速に行う。入団処理が遅れると保護者の不満を呼び起こす。また、退団処理が遅れることも同様である。
- (5) 通信事務は、迅速に行う。行政、民間を問わず、会場借り上げや補助金申請は締め切りを守り、団の信頼を高めることが重要である。

§ 7 隊指導者の養成と支援

第1日 16:25～17:25 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊指導者の選任と養成は、団委員会の責任であることを理解する。
2. 隊指導者と団委員会の関係について理解する。
3. 隊指導者の訓練体系について、概要を理解する。
4. 隊指導者への任務中の支援（インサービス・サポート）について理解する。

指導上のねらい

1. スカウト運動の成人に関する方針の各ステップと関連付けて理解させる。
2. 隊活動の全般を指導する責任は隊長にあり、団委員会は直接たずさわらず、団委員長は隊長に責任をゆだねるものであることを理解させる。
3. 団委員会は、隊指導者の任免、支援、養成について、大きな権限と責任を持つものであることを理解させる。
4. 隊指導者の養成のために、指導者訓練体系を知っておく必要があることを理解させる。
5. 隊指導者に対する任務中の支援（インサービス・サポート）が自己研修意欲の向上につながることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・スカウト運動の成人に関する方針
 - ・指導者養成に関する指針
 - ・指導者訓練体系図
- } 日本連盟ホームページ参照

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 団委員会、団委員長、隊指導者のそれぞれの「任務」を再確認する。
- (2) スカウティングにおける成人のライフサイクルの各ステップを確認する。
- (3) 隊指導者の選任における、団委員会の関わり方を確認する。
- (4) ①～③を基に、団委員会の具体的な責任と任務を確認する。
- (5) 特に団委員長としての資格や任務を確認する。
- (6) 指導者訓練体系の概要を確認する。
- (7) 隊指導者に対する任務中の支援（インサービス・サポート）について隊指導者は、任務遂行中に研修所などの定型訓練だけでなく、各種の研修の機会が提供される。団委員会はそのような機会に隊指導者が積極的に参加できるよう支援することが重要である。
 (例) 各種定型訓練、スキルトレーニング
 コミッショナーにより支援される個別の課題解決
 団や先輩指導者からの日常的な支援、等々

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 団委員会の任務（指導者の確保、選任および養成）
 - ①教育規程 第3章 3-9、11、12、14、15（団委員会の任務等）
 - ②教育規程 第3章 3-17～23（隊指導者。カブ隊指導者以下も同様）
 - ③教育規程 第3章 3-9-①-(5)（特に再掲）
 - ④スカウト運動の成人に関する方針（スカウティングにおける成人のライフサイクル）
 - ⑤指導者養成に関する指針
 - ⑥指導者訓練体系に関する資料（訓練体系図等）

(2) 留意点

- ①成人のライフサイクルの各ステップ（相互の同意と任命、訓練と支援など）について、団委員会としての具体的な業務（任務の内容や任期を明確にする、書面により行う、など）まで確認できるようにしてください。
- ②団委員会に求められる責務は、スカウトへの直接的な支援ではなく、隊指導者への支援を中心とした組織管理と隊運営への協力であることを、指導者の養成という視点から確認できるようにしてください。
- ③日本連盟が提供している定型訓練、県連盟や地区での定型外訓練やラウンドテーブルへの参加奨励も、団委員会がおこなう隊指導者に対する訓練・支援の一部であり、積極的に活用することと、その概要を確認できるようにしてください。
- ④隊指導者が任務を遂行するためには、必要な時に、必要な訓練を受けることが大切であることを認識させてください。（隊指導者の訓練ニーズの把握）
- ⑤隊指導者を支援する能力を高めるための、団委員の研修の位置付けについても、ここで触れておいてください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 隊指導者に対する団委員会の支援の一つは、具体的に「隊指導者の選任と養成」という方法によって行われる。
- (2) 選任にあたっての、同意、任命、訓練、支援、評価などの各ステップは、団委員会としての人的マネジメントの最重要の責務である。
- (3) 団委員会、特に団委員長は、マネジメントに必要な能力として、品性、知識、経験などが要求されている。
- (4) 隊指導者に必要な訓練が、必要な時に提供（任務中の支援【インサービスサポート】）されなければならないが、それも団委員会としての重要な支援内容である。

§ 8 団会議

第1日 18:20～19:50 (90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団会議の機能と役割について理解する。

指導上のねらい

1. 団会議の構成と、会議の趣旨、特に団のスカウト教育について推進状況、プログラム調整など重要事項を協議する場であることを理解させる。
2. 団会議の標準的な進め方、内容を理解させる。
3. 各部門の指導者に支援を行うには、様々な資源の活用が必要であることと、その方法を理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト「団会議レジュメ・団会議シナリオ」(P45-46参照)
- ・団会議・団委員会ワークシート(P47参照)
- ・役務シート
- ・発表用視聴覚教材<OHC(書画カメラ)・PC・プロジェクター等>

セッション運営要項作成にあたって(例)

1. セッションの概要と展望

- (1) スタッフによる演示により団会議を開催する。
- (2) 団委員長として、団委員会へ報告するものと、団委員会で協議すべきものを確認する。
- (3) 団会議で話し合われるべき内容について確認する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 団会議の機能と役割
 - ・教育規程 第3章 3-15(団会議)
- (2) 演示
 - ・スタッフにより、団会議の一部を演示する。
 - ・演示のシナリオは、ハンドアウト「団会議レジュメ・団会議シナリオ」(P43-44参照)を使用するが、参加者、開催地域、スタッフの状況により別途作成してもよい。
 - ・「団会議レジュメ・団会議シナリオ」は、参加者が演示を見て団会議、団委員会の役割を見出すための作業であるため、あえて団委員長が協議内容を整理したり、結論づけたりしていないことに、留意すること。
 - ・団委員長の視点で学んでほしい。
- (3) グループでの展開(スタッフによる演示により団会議を模擬体験する方法で展開してください。)
 - ① スタッフによる団会議の演示内容について、団委員長の視点でメモをとる。
 - ② メモから、①団会議で協議すべきもの、②団委員会へ報告すべきもの、③団委員会で協議すべきものに区分する。
 - ③ グループ内で話しあいワークシートを完成させる。
 - ④ グループごとにワークシートの内容を振り返り評価する。

(4) 留意点

- ① 演示のシナリオには、特に以下の内容を取り入れてください。
 - ・ 各隊活動の進展状況
 - ・ 各隊プログラム内容の調整
 - ・ 活動予定、場所、日程等の調整
 - ・ 団委員会への支援依頼とその調整
- ② 団は、スカウト教育を実施する最大の組織である。その中で団会議は重要な機能と役割を担っていることを確認してください。
- ③ 団会議での調整事項や、依頼事項により団委員会の支援活動が行われることになることを理解させてください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 団会議は、団のスカウト教育の進むべき方向を策定する上で重要な会議である。
- (2) 団会議は、ビーバーからローバーまでのプログラムの一貫性を担保するために必要な会議である。
- (3) 団会議は、団におけるスカウト教育の評価の場である。
- (4) 団委員長は、全ての隊の活動内容、進捗状況を把握し、団委員会に伝える責務がある。
- (5) 団会議の調整事項、依頼事項に基づき、団委員会の支援活動が行われる。

§ 9 スカウトの進級と団委員会

第2日 8:30~9:30 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 進級に関する団面接について理解する。
2. 進級に関する事務手続きについて理解する。
3. スカウトへの記章授与等について理解する。

指導上のねらい

1. スカウトの進級に関わって行われる団面接の意義と手順について理解させる。
2. 進級に関する事務手続き、特に地区面接、県連面接を必要とする進級について理解させる。
3. スカウトへの記章授与はスカウトにとって大切な場面であることを理解させると共に団委員会としてどのように配慮する必要があるかを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト①「考査面接一覧」(P 47 参照)
- ・ハンドアウト②「進級面接申請書(例)」(P 48 参照)
- ・ハンドアウト③「団面接の一例」(P 48 参照)
- ・ハンドアウト④「進級面接質問の一例」(P 49 参照)
- ・ハンドアウト⑤「面接手順(一例)」(P 50-51 参照)
- ・菊スカウト面接申請書(日本連盟ホームページからダウンロード)
- ・隼スカウト面接申請書(日本連盟ホームページからダウンロード)
- ・富士章面接・認証申請書(日本連盟ホームページからダウンロード)
- ・ビーバー・カブ個人記録(ボーイスカウトエンタープライズ)
- ・ボーイ・ベンチャー・ローバースカウト個人記録(ボーイスカウトエンタープライズ)
- ・日本連盟規程集
- ・日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」
- ・ボーイスカウト隊リーダーハンドブック

セッション運営要項作成にあたって(例)

1. セッションの概要と展望

- (1) 団委員会の任務についておさらいをする。(教育規程 3-9)
- (2) スカウトの進歩を促すための具体的な活動とは、どのようなことかを考えてみる。
- (3) **スタッフにより団面接シーンを演示する。**
- (4) 団面接とスカウトへの認証について理解する。(団委員会の責任において実施する。)
- (5) 認証作業(面接、記章授与、申請記録報告)について理解する。
- (6) 進歩・進級に関する事務手続きについて理解する。
- (7) 進歩記章等の授与や顕彰について理解する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) スカウトの進級に関する団の業務
 - ①教育規程 第3章 3-9(団委員会の任務)
 - ②教育規程 第7章 7-37、38(面接)
 - ③教育規程 第7章 7-39、40、41(面接区分と記章の交付)
 - ④教育規程 第7章 7-42、43(進歩記章と進級記章等の授与)

(2) 演示

- ・スタッフにより1級面接の一例を演示する、

(3) 留意点

- ①隊長が行う「認定」と、団委員会が行う「認証」について明確にし、あくまでも団面接は認証の場であることを伝え、再考査の場にならないよう留意する必要があることを伝えてください。
- ②面接がキーワードとなるよう参加者を指名しながら進めてください。
- ③団委員会がスカウトの進歩を促す支援や活動について、確認してください。
 - ・スカウトの実際訓練には、直接関わらない団委員ができること。
 - ・団の健全運営による活動環境を確保するものであること。
 - ・指導者訓練を援助し、正しいスカウト教育法の浸透を図るためのものであること。
 - ・さまざまな面で指導者を支援し、プログラム展開へ便宜を図るためのものであること。
 - ・登録等事務的事項を管理するとともに、加盟員の拡大を図るためのものであること。
 - ・権威ある機関として、スカウトへの認証作業を行うものであること。
- ④上記の面接が、スカウトの進歩を促す団委員会の任務の一つであることを明確に説明してください。
- ⑤団面接の他に、菊スカウト章、隼スカウト章、富士スカウト章の認証に当たっては、地区面接、県連盟面接等があることを確認し、その手順について説明してください。
- ⑥進歩・進級記章の交付方法について説明し、認証後なるべく早い時期に授与しなければならないことを確認してください。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 団面接等を通じて行うスカウトの進歩についての認証作業は、団委員会の重要な仕事である。
- (2) スカウトの進歩について記録を管理し、事務手続きを確実にこなすことは隊運営の強力な支援となる。
- (3) 記章授与や顕彰は隊の重要なプログラムであり、その機会を提供することは団委員会の大切な仕事である。

§ 10 安全計画

第2日 9:35～10:35 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. プログラムをもとに安全計画を立案できる。
2. 安全計画の評価と運用ができる。

指導上のねらい

1. プログラム計画からプログラム実施までのプロセスにおいて、同時進行で安全計画が立案され実行されていくことを理解させる。
2. 安全計画の立案は独立したものではなく、隊での計画策定→団会議での発表と支援要請→団委員会での支援計画の立案→実施承認→実施時の対策→実施後の評価・反省・改善策の策定の手順を辿ることを理解させる。
3. スカウト活動における安全確保は団全体で取り組む作業であることを理解させる。
4. 団で判断に困ったとき等はコミッショナーの支援を得ることも必要であることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ 隊集会計画書
- ・ 安全計画ワークシート (P 51 参照)
- ・ 教具、資料等

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望
 - (1) プログラム計画書を元に安全計画を立案、評価する。
2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること
 - (1) グループ作業 1
あらかじめコース側で用意した隊集会計画書を配布し、想定される災害（不可抗力によるものを除く）をワークシートに列挙する。
 - (2) グループ作業 2
列挙した災害を、「①安全教育（技能訓練等）によって解消するもの」「②安全対策によって解消するもの」に分類する。
 - (3) グループ作業 3
安全対策を講じることによって解消すべき項目に対して、安全対策内容を立案する
 - (4) グループ作業 4
団委員会が行う支援を立案する。
隊指導者のみで実施できる安全対策は記載しなくてもよい。
3. セッションのまとめと確認事項
 - (1) 実務上はグループ作業3と4のところで、団会議において活動計画を発表し、団委員会他の隊に依頼すべき事項を協議する。団委員長はそれを団委員会に諮り、団の責任において支援策を立案する。隊指導者は必ず団会議に計画書を提出し、団委員会の実施承認を得ておくことが重要である。
 - (2) 安全教育、安全対策、安全管理の概念は次の § 11 で取り扱う。

§ 1 1 安全対策と危機管理

第2日 10:35～12:35 (120分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 各隊プログラム活動に対する安全教育、安全対策、安全管理について理解する。
2. 団運営における危機管理体制の構築と運用について理解する。
3. 危機管理における保護者への対応、プレスへの対応について知る。
4. そなえよつねに共済と賠償責任保険について知る。

指導上のねらい

1. 安全教育と安全対策、安全管理について理解させる。特にそれぞれの主務者を明確にする。
2. 各隊が実施する安全教育について団委員会として隊指導者を支援する必要性と方法を理解させる。
3. 各隊プログラムにおける安全対策への人的・物的な協力も隊運営への重要な支援であることを理解させる。
4. 安全教育と安全対策が効果的に実施されるように努めることが団委員会の任務であることを理解させる。
5. 危機管理にはスカウト保護者への対応のみならず、プレス等組織外への対応も含まれていることを知らせる。
6. 事故等への対応、各種保険、組織防衛の方法について理解させる。
7. そなえよつねに共済と賠償責任保険については概要のみを知らせる。

準備品(資材・資料)

- ・「そなえよつねに共済／賠償責任保険」手引き
- ・ハンドアウト「事故対策図」(P 5 2 参照)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望
 - (1) § 1 0 の作業を踏まえて、安全教育、安全対策、安全管理の定義と、それらの関係について理解させる。
 - (2) 危機管理と保険の種類、責任の種類について知らせる。
 - (3) 安全管理体制と隊への支援について理解させる。
2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること
 - (1) 各用語について、明確に定義し説明する。
 - ①安全教育

スカウトが、その発達段階に応じた安全意識や安全能力、危険への対応能力等を身に付け実行できるよう、スカウト教育法により成長すること。安全教育は隊指導者の責任において実施される。
 - ②安全対策

危険を予測し、事前にその危険に対する対策を立て、実行すること。安全対策の立案は隊指導者が行う。ただし、実施は隊指導者と団委員会の責任において行われる。
 - ③安全管理

安全教育や安全対策が的確に実行されるための組織や環境、手法等を提供し、維持し、改善すること。隊、団のすべてのレベルで管理が実施される。
 - ④危機管理

万が一事故が起こった場合を想定した、各種の対応への準備(保険加入、緊急連

絡網、対応窓口、資料整備、初動費用の確保など)

- ⑤保険の種類
 - ・傷害保険と賠償責任保険とその違い
 - ・そなえよつねに共済
- ⑥責任
 - 民事責任、刑事責任、道義的責任

(2) 安全管理の視点による隊への支援の具体例

- ①次の課題をグループで取り組ませることにより、団委員会が行うべき安全管理についての一例として理解させる。

【課題】

各隊活動（特に通常の活動場所以外へ出かける場合）の安全対策が確実に実施されるよう、団として共通の確認書類（様式）や手順を考えてください。

- ②発表と評価により、全体でより理解を深めてください。

(3) 留意点

- ①ここでの用語の定義は、「ボーイスカウト安全入門」の内容とは若干異なっている部分があります。
- ②保険の種類別、補償対象、補償内容等については、「そなえよつねに共済」手引きを具体例として活用してください。
- ③課題の「共通の確認書類（様式）」の例
 - 下見計画書、下見報告書、安全対策計画書、個人健康調査票など
- ④課題の「手順」の例
 - 作成責任者、提出先、提出期限、団委員会の関与、最終許可者など
- ⑤安全管理の手順については § 1 3 「団委員会と団会議の連携」でも取り扱う。

(4) 危機管理体制の構築

- ①有効な連絡網の策定
 - 病院、消防、警察、スカウト関係者、受傷者の家族
- ②窓口の一本化
 - 救急、家族、プレス、団内の保護者
- ③他のスカウトへの対応
- ④各種保険などの確認と保険会社への第一報

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 各隊における安全教育や安全対策が的確に実行されるように、組織や環境、手法等を提供し、維持し、改善することが安全管理であり、団委員会の重要な任務である。
- (2) 同時に、万が一事故が起こった場合に備えて、各種の対応への準備をしておく必要がある。
- (3) 保険の種類や内容を理解し、適切に加入することが大切である。
- (4) 危機管理体制は構築するだけではいざというときに機能しない。定期的に体制の確認を行い、想定訓練を実施することが必要である。

§ 1 2 隊を支援する方法

第2日 13:20～14:50 (90分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 隊指導者の任務の概要について知る。
2. 隊活動への財政的支援について理解する。
3. 隊指導者と団会議、団委員会の連携と各隊のプログラム活動に対する支援について理解する。

指導上のねらい

1. 隊指導者、特に隊長の任務について概要を知らせる。
2. 活動資金等の支援について理解させる。
3. 各隊のプログラム実施時に団委員会に求められると思われる各種支援（キャンプ時の輸送、活動場所の提供、資材・備品の便宜供与等）について理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト「読図ハイキング実施要項(案)」(P52参照)
- ・ワークシート「ハイキング支援計画書」(P53参照)
- ・日本連盟発行書籍「団の運営と団委員会」

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 隊指導者、特に隊長の任務について概要を知らせる。
- (2) 隊長が任務を遂行するために、様々な支援が求められる。その支援要請に応えるための「支援計画」を完成させる。
- (3) 隊活動を行うため資金は、団委員会が責任を負う必要がある。
- (4) 団によって資金の充足方法は違うが、育成会→団→隊と資金が供与されることが基本である。
- (5) 資金の支援はもちろんであるが、そのほかにも人的、物的支援や安全上の支援が求められる。これらの要請に応えていかないと、隊長のなり手がなくなる。
- (6) 支援内容に漏れはないか、実現可能な支援計画か評価する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 作業の前提として
 - ① 支援計画書が果たす役割を確認し、共通理解する。
 - ② 作業の前提となる情報(想定)を確認し、共通理解する。

(2) 作業の展開手順（このセッションは、グループ作業を中心に展開してください。）

①課題の提示と作業内容の指示を行う。

「課題」

ボーイ隊長から、次のような支援要請がありました。グループで話し合って、支援計画を立案してください

「再来月、全行程約15kmの読図ハイキングを行います。団委員の皆さんにお願いしたいのは、次のとおりです。また、計画書は、別紙の通りです。」

②ワークシートの作成

- ・グループでの話し合いを通じて、要請された依頼内容を実感し、具体的な支援内容について、「物的資源」、「人的資源」、「資金的支援」、「その他の支援」、「担当者」、「具体的な内容」、「いつまでに行うのか」についてワークシートを完成させる。

③発表と評価（グループ数×3分以内）

- ・具体的な支援内容に漏れは、ないか確認する。
- ・人的、物的支援は十分か確認する。

(3) 留意点

①隊指導者の任務は、スカウト達が自発活動を行ううえでの安全面・技能面・精神面の指導・支援及び成長の評価が主たるものとなることを明確にする。

②隊長がプログラム活動を推進するために必要な資金は、団委員会が責任を持つ必要があることを明確にする。

③隊長がプログラム活動を推進するために必要な「資材」、「備品」、「安全対策」、「活動場所」等についての便宜供与が、団委員会の重要な任務であることを明確にする。

④グループ作業の内容は、隊からの要請に基づき、隊指導者が任務遂行できるように、いかに支援できるか、また、要請の内容以上により良く支援するために、団として具体的に何ができるのかを主眼に置く。

⑤評価は、以下の項目について振り返る。

- ・活動計画の全てについて理解できていたか。
- ・資材、人的配置は十分か。
- ・安全面の配慮は十分か。
- ・外部の支援を得るために、日頃のコミュニケーションは得られているか。

3. セッションのまとめと確認事項

(1) 隊指導者の任務と団委員の任務の違いを明確に理解することが大切である。

(2) プログラムのねらいは何なのかを理解することで、支援の内容が明確になってくる。

(3) 隊長から様々な支援要請に、的確に答えて行くことがプログラムを安全に進め、所期の目的を達成させるポイントとなり、このことが団の発展につながっていくこととなる。

(4) 外部の支援を受けるためには、人脈は欠かせない。日常でのコミュニケーションを大切にして、人脈を広げるようこころがけるのも任務の一つと言える。

§ 1 3 団委員会と団会議の連携

第2日 14:55～17:25 (150分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団委員会と団会議の関係について理解する。
2. 隊の支援計画を策定できる。

指導上のねらい

1. 団会議での内容をもとに団委員会を体験することによって、それぞれの会議が果たす機能や運営の方法、隊活動への支援の方法を理解させる。
2. 団委員会後の活動計画の立案と実施ができるようにする。

準備品(資材・資料)

- ・ボーイ隊の3泊4日の隊キャンプの企画書と、支援要請事項案(所員で準備)
- ・ボーイ隊以外の月間プログラム企画(支援要請はなく、調整程度)
- ・**団委員の支援計画**ワークシート(P53参照)

セッション運営要項作成にあたって(例)

1. セッションの概要と展望

- (1) グループごとに団会議を開催する。
- (2) グループごとに団委員会を開催する。
- (3) 団委員会において、支援行動計画を決定する。
- (4) 一連の流れを振り返り、評価する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 作業の前提として
 - ① 模擬の会議を体験することによって、団会議と団委員会の運営方法や機能を学ぶ作業である。
 - ② 団委員長視点で学んでほしい。
- (2) グループでの展開(グループごとに団会議、団委員会を模擬体験する方法で展開)
 - 【団会議】グループごとに実演
 - ① グループで団委員長、各隊長役を決め、模擬団会議を開催する。
 - ② あらかじめ配布された資料(所員作成)に基づき、各隊長が報告する。
 - ③ 隊長役の参加者も、団委員長視点でメモを取る。
 - ・ 隊長より各隊の活動計画書(所員作成)の報告
 - ・ 各隊の活動計画等の調整・協議
 - ・ ボーイ隊から団に対する支援活動の依頼(ボーイ隊のみ)
 - ・ 団委員長からの支援要請についての質問
 - ・ 具体的な支援内容等の相互確認
 - 【団委員会】グループごとに実演
 - ① グループで団委員長、団委員とその担当を決め、模擬団委員会を開催する。
 - ② 団会議での「団委員長メモ」(所員作成)に基づき、団委員会を進行する。
 - ③ 団委員の役割分担等により、団委員会としての支援行動計画を決定する。
 - ・ 団委員長からの団会議の報告(概要)
 - ・ 団会議において、ボーイ隊からの具体的な支援要請内容についての説明
 - ・ 団委員の各担当の役務からの意見や支援内容等を聞きながら協議
 - ・ 支援要請をもとに支援計画の立案(ワークシートへの書き込み)

【評価】 グループごとに発表

①グループごとに会議を振り返って評価し、改善点について話し合う。

(3) 留意点

①議題は、各隊の2ヶ月後のプログラムの報告に絞る。

②支援要請は、ボーイ隊の3泊4日の隊キャンプを想定する。

③会議の進行については、団委員長役に一任する。

④支援行動計画は、特に様式として完成させなくてもよい。

⑤人的、物的な支援だけでなく、指導者の技能修得支援や**安全管理手順**の徹底（安全対策計画書の作成、提出、決裁等）も支援である。

⑥評価は、以下の項目について振り返る。

全ての事項が十分に報告、検討できたか。

結論や対応は適正であったか。

各隊の協働や一体感を損なうことはなかったか。

各隊長が意欲を持って取り組んでいける雰囲気はできたか。

団委員間で十分に共通理解できたか。

団委員会が判断、決定すべき事項は明確になったか。

団委員の協力や役割分担はできたか。

他のリソースを活用することができたか。

今後の具体的な支援行動が明確になったか。

各団委員が意欲と責任感を持って支援していける雰囲気はできたか。

支援がスカウト教育の成果に結びついたか。

(4) §5「隊から求められる支援」、§7「団会議」との違い

①参加者が実際に役割を分担して行う「模擬体験」である。

②会議の運営技能も重要なポイントとなる。

③受身的な、あるいは人的・物的・金銭的な支援だけではなく、団委員会（団委員長）が管理運営機能を発揮することも、隊運営への重要な支援である。

3. セッションのまとめと確認事項

(1) 団内各隊への支援が円滑に進むように、団会議や団委員会といった会議を定例的に開催し、活用することが必要である。

(2) 隊活動への支援という視点から見ても、団会議や団委員会の会議を運営する能力は団委員長にとって必要な、重要な能力である。

(3) 団委員会は、隊からの支援要請を受けるだけではなく、団会議を通じて、情報の提供や、隊指導者の意欲と責任感を高める工夫もしていく必要がある。

(4) スカウト教育を成功させるためには、隊と団が一体となって友好的な協力関係を作り上げていく必要がある。

§ 1 4 団の年間計画

第2日 17:30～19:50 (140分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 団の年間計画を立案できる。

指導上のねらい

1. 団の年間計画立案のねらいについて理解させる
2. 団の中長期計画に基づく課題と方法を考えさせる。
3. 隊への支援計画作業を体験させる。
4. ただ単にスケジュールを割り振るだけではなく、高度な調整作業が必要であることを理解させる。
5. 様々なリソースを活用する方法があることを知らせる。

準備品(資材・資料)

- ・ハンドアウト「前年度の団事業の状況及び問題点」(P 5 4 参照)
上記ハンドアウト以外でも団の問題点や課題を設定できる現状の情報資料で代替しても構わない。
- ・ワークシート①～③(P 5 4－5 5 参照)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) なぜ計画表が必要かを確認する。
 - ・団の年間計画とは何か(計画表はどのような機能を持っているか?)
- (2) 中長期目標に基づき、隊運営に対する団委員会の支援として、この1年間に取り組むべき課題と具体的な方法を挙げる。
- (3) 団の年間計画に盛り込み、調整する。
- (4) 隊への支援の年間計画表として完成させる。
- (5) 実現可能な計画か、効果的な計画か、評価する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 作業の前提として
 - ①計画表が果たす役割を確認し、共通理解する。
 - ②作業の前提となる各種の情報(ハンドアウトほか)を確認し、共通理解する。
- (2) 作業の展開手順(このセッションは、グループ作業を中心に展開してください。)
 - ①前年度の団事業の状況及び問題点(ハンドアウト)の内容の理解
 - ②問題・課題の整理とそれぞれに対応した解決への目標(あるべき姿など)の設定(ワークシート①の作成)
 - ③解決の目標を達成するための事業計画づくり(ワークシート②の作成)
 - ④団の事業計画づくり(ワークシート③の作成)
 - ⑤発表と評価
 - ・スケジュールの密度等を実感し、実現可能かどうか考えてみる。
 - ・活用できるリソースを確認する。

(3) 留意点

- ①計画表が果たす役割（計画表はどのような機能を持っているか？）
- タイムスケジュール
 - 予定一覧表（隊、団、地区、県連盟、地域、育成会、その他）
 - 外部からの支援プログラム（研修、面接、表彰、団訪問、スカウト行事、ラウンドテーブル）
 - 調整表（隊と隊、隊と団、団と地区・県連盟、団と地域）
 - 隊への支援プログラム
 - 問題解決のプロセス
 - 団発展のためのプロジェクト
 - 任務分担表
- ②進級（面接）、スカウト募集などは他のセッションでの扱いと重複しないようにして、ここでは隊指導者への訓練機会の提供を素材として中心に据える。
- ③県連盟や地区、コミッショナーやトレーナーからの支援については、§16「団への支援」へつないでいく。
- ④実際には数年にわたる長期的な支援が必要となるが、複数のレベル（A隊長＝実修所、B副長＝研修所、C副長補＝講習会など）で理解させる。
- ⑤定型訓練への参加だけでなく、幅広い学習機会や、学習意欲の喚起なども取り上げるようにする。
- ⑥日程調整表でもある。ワークシート③には実際の「日にち」を入れること。集会や行事、会議を挙げていくと、ほとんど日がないという現実を見つめる必要がある。そこからの調整が、団委員会の重要な任務でもあるといえる。
- ⑦提供資料は4～3月の区切りでもよい。団は実際にはそれをもとに9～8月の計画表を作成する現実がある。そのずれや調整が、団と県連盟や地区との関わり方につながってほしい。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) 団委員会は団内各隊の教育が円滑に進むよう計画的に支援することが必要である。
- (2) 計画は、団の将来を見据えた「中長期計画」がベースとなるが、隊活動の年間プログラムに合わせたもの（年間計画）が必要となる。
- (3) 年間計画とは、団発展のためのプロジェクトであり、問題解決のプロセスであり、隊への支援プログラムである。
- (4) 地区や県連盟、コミッショナーやトレーナーなどの外部資源も計画的に活用することにより、より効果が期待できる。

§ 15 スカウト募集

第3日 8:30~9:50 (80分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. スカウト募集活動について理解する。

指導上のねらい

1. 団の運営面やスカウトの教育面において、適正な人数の隊を維持することが重要であることを認識させた上で、定期的なスカウト募集の必要性を理解させる。
2. スカウト募集は団委員会の責任において行われることを理解させる。
3. スカウト募集の考え方と方法について理解させる。
4. スカウト募集は隊指導者の協力なくしてはできないことを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ワークシート (P 56 参照)
- ・ハンドアウト「ワークシート記入例」 (P 56 参照)

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) スカウト募集の基礎としての、団の展望
- (2) 募集計画の策定
- (3) 具体的な方法の検討
- (4) 関連する団委員会の任務

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

- (1) 展開においては、以下の作業を取り入れてください。
 - ①まず「募集ありき」ではなく、団委員会の使命（団及び隊を、スカウト教育に最適な環境として発展させ、維持すること。）を理解させる。
 - ②教育規程に示されている各隊の組織編成の標準人数（BVS 3-16・CS 3-27・BS 3-46・VS 3-63・RS 3-75）により、最適規模と現実的な許容範囲を確認し、団の組織拡充にあたっての中長期展望として決定させる。
 - ③展望に向けての1年間程度のスパンでの計画と具体的な方法について、グループで検討させる。

「課題」

団でスカウトの募集を定期的に行うことになりました。グループ(団委員会を想定して)で話し合いながら、有効な方法を考えてください。

- ④直接的な募集のほかに、団委員会としての間接的な広報や組織強化についても検証させる。

(2) 留意点

- ①現状については、参加者の所属する団の実態（スカウト数）を活用してもよい。
- ②スカウト募集の事例発表とならないよう、「チラシ配布」、「体験入隊」は方法の例として先取りしてしまい、その他の有効な方法を考えさせてください。
- ③募集活動は「スカウトが仲間を連れてくること」とも定義できるので、団委員会のみの視点とならないように留意してください。
- ④団委員会の責務は、直接的な募集よりも、間接的な組織強化（※）が重要であることに気付かせてください。
※スカウト数に応じた指導者の確保育成、必要経費の明確化、責任の明確化、教育のねらいのPR、地域社会との協働など。

3. セッションのまとめと確認事項

- (1) スカウトの募集時には、教育のねらい、子どもの成長にどのような貢献ができるか、必要経費はどれくらいか、保護者の負担はどれくらいか、活動時間はどれくらいかを明確に説明することが必要である。そのことが保護者に安心感を与えることになる。
- (2) 団の日常の活動や地域での風評がスカウト募集に大きく影響する。大人同士の揉め事や事故が絶えないなど、日常の団運営のあり方が問われる機会でもある。

§ 16 団への支援

第3日 10:00～11:00 (60分)

目 標

参加者は、このセッション終了時に次のことが達成できる。

1. 都道府県連盟、地区、隣接団との連携について理解する
2. 行政、地域団体、関連諸機関との連携が団委員会の重要な責務であることを理解する。

指導上のねらい

1. 地区や県連盟の組織や運営への積極的な参画が必要であることを理解させる。
2. 隣接団との有効な連携は、団にとって有益であることを理解させる。
3. 行政、地域団体、関連諸機関との連携は、団委員会の重要な責務であり、これらの組織等から支援を受けることができること、また支援を受けるための留意点等を理解させる。
4. 安全対策、安全管理の実施にあたってはコミッショナーの支援を受けることも必要であることを理解させる。

準備品(資材・資料)

- ・ 県連盟役員名簿
- ・ 地区役員名簿

セッション運営要項作成にあたって

1. セッションの概要と展望

- (1) 現状を踏まえ、団と地区、県連盟の関係の実態を理解する。
- (2) 教育規程等により、地区や県連盟の設置の目的を理解する。
- (3) 地区や県連盟の組織や運営への積極的な参画が必要であることを理解する。
- (4) 近隣団や地域との連携も重要であることを理解する。

2. 訓練目標を達成するために伝えること・実施すること

【課題】

次年度の地区の運営委員会委員として、あなたの団から進歩委員1名と指導者養成委員1名をお願いしたいと地区委員長から言われました。

また地区コミッショナーからは、次期地区副コミッショナーとしてカブ隊のA隊長(昨年度実修所修了)を考えているとの相談を受けています。

地元の青少年育成市民会議からは、役員として団委員長に入ってほしいという打診もありました。

団委員長としてどのように対応したらよいか、グループで話し合ってみてください。

- (1) 展開の前段で、以下の課題を提示してください。
- (2) 参加者の所属する地区や県連盟組織の現状を踏まえて、以下のポイントを確認させてください。

【ポイント】

- 地区や県連盟は「誰が」構成しているのか、役員は「誰が」つとめているのか。
- 地区の役員は、よその地区の指導者や、地区内の指導者以外の人が引き受けてくれるわけではない。
- 地区や県連盟は、団と別の組織ではなく、各団から人材を出し合って協同で運営していくものである。
- 地区や県連盟は、団や隊の活動を支援するために組織されているのである。
- 地区や県連盟の役員をつとめるのは、隊への支援である。

(3) その他の参考資料等

①教育規程 第4章 都道府県連盟 4-1 設置と構成、4-2 設置の目的

② 同 第5章 地区 5-1 設置と構成、5-2 設置の目的

(4) 留意点

①課題はグループ作業でも、個人作業でも、講義としてもけっこうです。

②団が「連携する」ということは、組織の構成上、団もその構成員となり積極的に参画する必要があるということを、理解させるようにしてください。

③地区や県連盟の組織の力は、スケールメリットという点から考えても、団単独ではできないような支援も可能になるということを強調してください。

④特に安全対策、安全管理において地区との日常の連携が重要であることを伝える。

3. セッションのまとめと確認事項

(1) 隊からの支援要請に対して、団委員会の力の及ばないことは多々あり、これらについては団を取り巻く組織等の支援を得ることができる。

(2) これらの支援を得るためには、日常の団運営、人間関係を大切にしておく必要がある。

1. 開式のことば
2. 修了証授与
3. 所長挨拶
4. 主催者挨拶
5. 来賓挨拶
6. 来賓紹介
7. 連盟歌斉唱
8. 国旗儀礼（国旗降納）
9. 閉式のことば

ねらい

- ・ 参加者に本コースで学習したことを自団に生かし、よりよい団運営展開への意欲と自信、心構えについて改めて確認させる場とする。

留意点

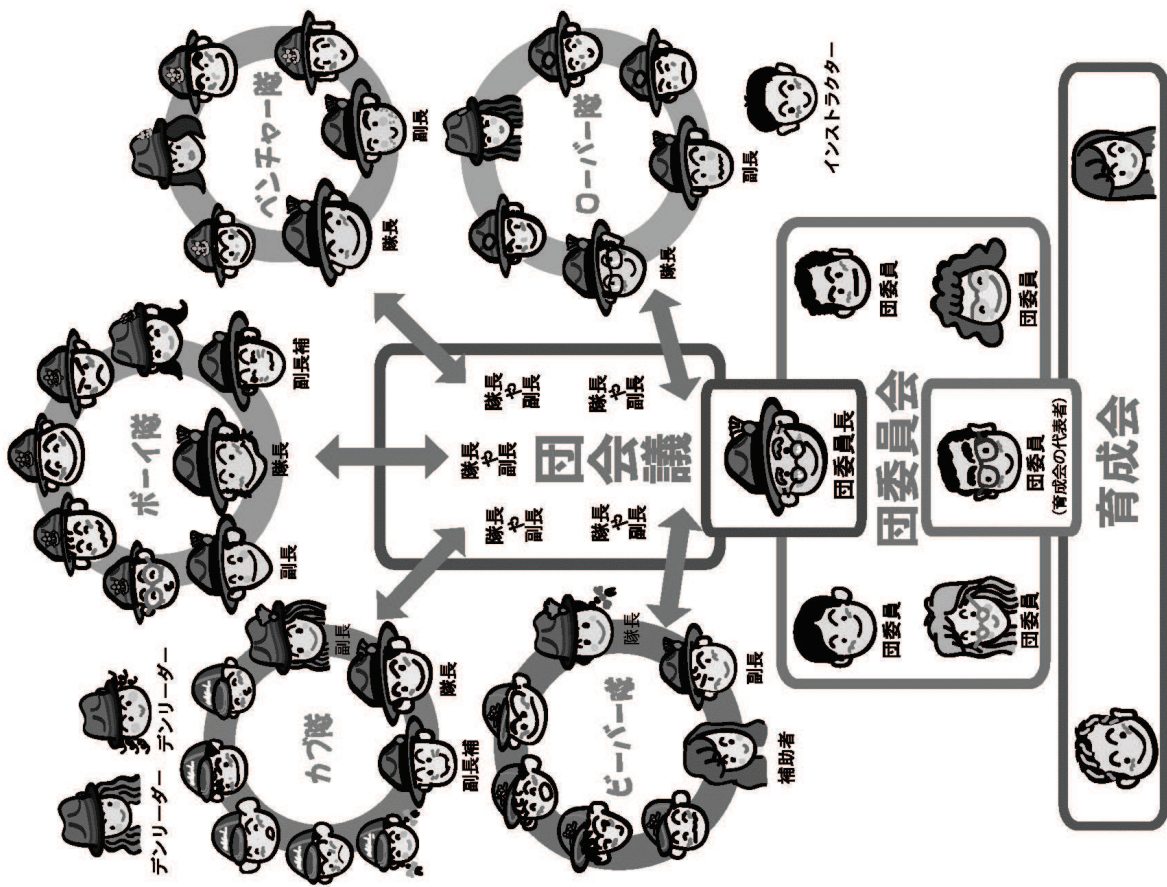
- ・ 団委員研修所を終えるのに相応しい場所を選定する。
- ・ 国旗降納の際は、国旗を掲揚柱から外し、所長に返納する。

準備品

- ・ 団委員研修所修了証
- ・ 修了証入れ盆
- ・ 閉所式式次第
- ・ 参加者（順序を調整）名簿
- ・ 参加者への返却品

ハンドアウト ワークシート

団の組織／スカウト達の身近で支援する成人達



日本ボーイスカウト○○連盟 □□第○団の規約例

< 団 規 約 >	
第 1 章	総 則
第 1 条	(名称)
第 2 条	(設置場所)
第 2 章	目的及び活動方針
第 3 条	(目的)
第 4 条	(活動方針)
第 3 章	団 組 織
第 5 条	(組織)
第 6 条	(団の運営)
第 7 条	(指導者及び団役員の責務)
第 4 章	団 委 員 会
第 8 条	(団委員会の役目)
第 9 条	(団委員会の構成)
第 10 条	(団委員の任期)
第 11 条	(会議)
第 12 条	(専門委員の選任)
第 5 章	団 会 議
第 13 条	(団会議)
第 6 章	入 団 ・ 退 団 及 び 休 隊
第 14 条	(入団)
第 15 条	(退団)
第 16 条	(休隊)
第 17 条	(移籍)
第 7 章	活 動 年 度
第 18 条	(活動年度)
第 8 章	会 計
第 19 条	(諸費用)
第 9 章	定 め に な い 事 項
第 20 条	(定めない事項)
第 10 章	規 約 改 訂
第 21 条	(規約改訂)

< 育 成 団 体 会 則 >	
第 1 章	総 則
第 1 条	(名称)
第 2 条	(設置場所)
第 2 章	目 的
第 3 条	(目的)
第 3 章	組 織
第 4 条	(会員) [正会員、維持会員、賛 助会員]
第 4 章	役 員
第 5 条	(役員) [会長、副会長、理事、 監事、会計]
第 6 条	(役員の選任)
第 7 条	(名誉役員) [名誉育成会長、顧 問、相談役]
第 8 条	(役員の任期)
第 5 章	会 議
第 9 条	(会議の種類) [総会、臨時総会]
第 10 条	(議長)
第 11 条	(会議の議決)
第 12 条	(総会での付議事項)
第 6 章	会 計
第 13 条	(会計及び経費)
第 7 章	定 め に な い 事 項
第 14 条	(定めない事項)
第 8 章	会 則 改 訂
第 15 条	(会則改訂)

<育成団体会計規則>

- 第1章 総則
第1条 (総則)
- 第2章 会計
第2条 (会計方法)
第3条 (特別積立会計)
- 第3章 担当者
第4条 (会計担当者)
- 第4章 会計年度
第5条 (会計年度)
- 第5章 収入源
第6条 (収入)「育成会費、隊費、入団金、寄付金、賛助金、預金利子、雑収入、休隊費」
- 第6章 予算
第7条 (予算編成)
第8条 (補正予算)
- 第7章 緊急支出
第9条 (緊急支出)
- 第8章 帳憑 (ちようひよう) 書類
第10条 (帳憑書類)
第11条 (書類の保存)
- 第9章 決算と監査
第12条 (決算と監査)
- 第10章 事故処理
第13条 (事故処理)
- 第11章 慶弔贈呈金
第14条 (慶弔贈呈金)
- 第12章 参加経費・派遣経費
第15条 (指導者に関する経費)
第16条 (派遣経費)
- 第13章 定めない事項
第17条 (定めない事項)
- 第14章 規則改訂
第18条 (規則改訂)

<会計付則>

- 1. 育成会費
(1) 正会員
(2) 維持会員
(3) 賛助会員
- 2. 隊費
(1) ビーバー隊
(2) カブ隊
(3) ボーイ隊
(4) ベンチャー隊
(5) ローバー隊
- 3. 入団金
- 4. 休隊費
- 5. 慶弔贈呈金
(1) 結婚祝金
(2) 弔慰金
(3) 功労感謝金
(4) 見舞金

〇〇年度団体会計収支決算書(例)

令和〇〇年9月1日～令和〇〇年8月31日

収入の部	項目	決算額	備考
	前年度繰越金	115,643	
	BVS隊	216,000	12人×18000
	CS隊	324,000	18人×18000
	BS隊	432,000	24人×18000
	VS隊	216,000	12人×18000
	RS隊	90,000	5人×18000
	登録費・保険料収入	297,500	85人×3500
	育成会助成金	744,000	62人×12000
	入団金収入	48,000	6人×8000
	市町村補助金	97,000	
	雑収入	3,504	利息等
	合計	2,583,647	

支出の部

支出の部	項目	決算額	備考
	BVS隊	216,000	
	CS隊	324,000	
	BS隊	432,000	
	VS隊	216,000	
	RS隊	90,000	
	備品費	80,000	ドームテント購入
	指導者養成費	35,400	WB研修所補助
	組織拡張費	50,000	募集チラシ他
	慶弔費	20,000	入院見舞い、香典
	標章費	5,672	記章類
	通信運搬費	45,600	郵送料
	日連・県連・地区登録費	423,000	
	保険加入費	78,200	日連共済、イベント
	団事業費	131,978	隊活動支援他
	隊助成費	216,500	隊キャンプ他補助
	雑費	15,600	
	次年度繰越金	203,697	
	合計	2,583,647	

〇〇年度団会計収支予算書(例)

令和〇〇年9月1日～令和〇〇年8月31日
単位 円

収入の部

項目	予算額	備考
前年度繰越金	203,697	
BVS隊	180,000	10人×18000
CS隊	306,000	17人×18000
BS隊	396,000	22人×18000
VS隊	198,000	11人×18000
RS隊	90,000	5人×18000
登録料・保険料収入	290,500	83人×3500
育成会助成金収入	708,000	59人×12000
入団金収入	40,000	5人×8000
市町村補助金	97,000	
雑収入	10,000	利息等
合計	2,519,197	

支出の部

項目	予算額	備考
BVS隊	180,000	
CS隊	306,000	
BS隊	396,000	
VS隊	198,000	
RS隊	90,000	
備品費	100,000	
指導者養成費	50,000	
組織拡張費	100,000	
慶弔費	30,000	
標草費	20,000	
通信運搬費	50,000	
日連・県連・地区登録費	420,000	
保険加入費	80,000	
団事業費	150,000	
隊助成費	250,000	
雑費	10,000	
予備費	89,197	
合計	2,519,197	

団会計貸借対照表(例)

令和〇〇年8月31日

(単位 円)

資産		負債	
科目	金額	科目	金額
現金	0	預り金	0
流動資産		流動負債	
普通預金	203,697	未払金	0
記念事業引当預金	250,000	記念事業引当金	250,000
子一フ製作引当預金	60,000	子一フ製作引当金	60,000
備品購入引当預金	300,000	備品購入引当金	300,000
運営資金引当預金	200,000	運営資金引当金	200,000
緊急対策引当預金	400,000	緊急対策引当金	400,000
器具備品	1,543,800	器具備品残高	1,543,800
固定資産		残高勘定	
合計	2,957,497	当期剰余金	203,697
		合計	2,957,497

団員研修所 §8 団会議演示 団会議レジュメ(例)

令和〇〇年度 第3回 団会議

1. 日 時 令和〇〇年 5月 11日(金)
2. 場 所 △△公民館
3. 出席者 団委員長、BVS 隊長、CS 隊長、BS 隊長、VS 隊長、RS 隊長
4. 内 容
 - (1) 県連、地区情報(団委員長から報告と相談)
 - (2) ラウンドテーブル出席報告(各隊長から)
 - (3) 各隊活動の実施報告ならびに実施計画
 - ① 前月の活動とスカウトの状況等について報告
 - ② 次月活動計画の変更点などの調整
 - ③ 再来月の活動計画案の発表と調整
 - i) 活動日時、場所の調整
 - ii) 使用する団備品の調整
 - iii) その他

(4) 団委員会への支援依頼および調整
(5) その他の事務連絡等

団財産目録(例)

令和〇〇年8月31日現在

科目		摘要	金額	
流動資産	現金		0	
	預金		203,697	
固定資産	器具備品	A型テント 6人用 6点	360,000	
		ドームテント GV404 6点	480,000	
	パイプテント 3K×2K 1点	食堂用フライ 4点	280,000	
		キャンプテーブル 4点	40,000	
		ガスランタン 12点	110,000	
		ガスコンロ 8点	60,000	
		大なべ 2点	48,000	
		ガス炊飯器 4升炊 1点	10,000	
		斧 4点	40,000	
		会議用テーブル 4点	28,800	
会議用椅子 12点	44,000			
資産合計		43,000		
繰入引当資産	記念事業引当預金	〇〇銀行△△支店 定期預金	250,000	
	チーフ製作引当預金	〇〇銀行△△支店 普通預金	60,000	
	備品購入引当預金	〇〇銀行△△支店 普通預金	300,000	
	運営資金引当預金	〇〇銀行△△支店 普通預金	200,000	
	緊急対策引当預金	〇〇銀行△△支店 定期預金	400,000	
	負債合計		2,957,497	
流動負債	預り金		0	
	未払金		0	
	引当勘定	記念事業引当金	記念事業引当金残高	250,000
		チーフ製作引当金	チーフ製作引当金残高	60,000
		備品購入引当金	備品購入引当金残高	300,000
		運営資金引当金	運営資金引当金残高	200,000
緊急対策引当金	緊急対策引当金残高	400,000		
残高勘定	器具備品	器具備品残高	1,543,800	
負債合計		203,697		
負債合計		2,957,497		

演示のシーン： 配布の上記レジュメ(例)のとおり、団会議が進み、各隊からの団委員長への要望について話し合われる。

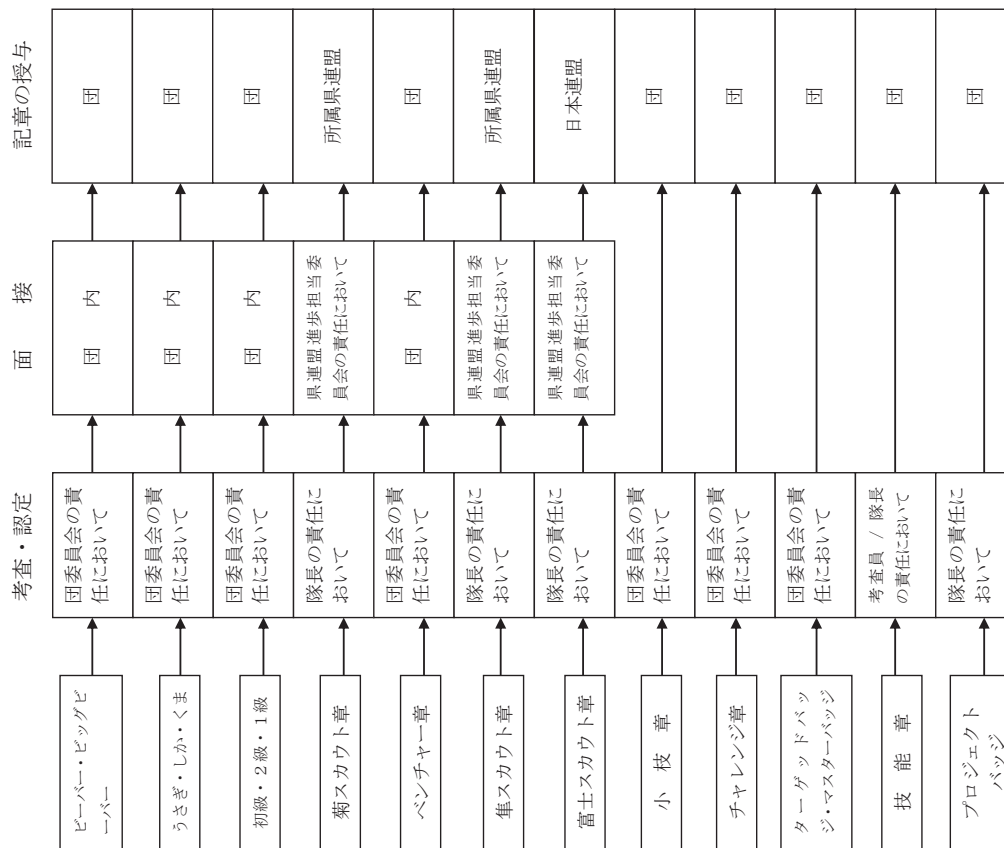
§8 団会議演示 団会議シナリオ(例)

団委員長 それでは各隊から団委員会への要望がありましましたらご発言ください。
 B S 隊長 先月の班集会および隊集会での活動の結果 A 君が 2 級スカウト章の審査を終了しました。次の土曜日の班長会議で認められれば認定しようと思っております。進級面接をお願いします。
 団委員長 そうですか。よかったですね。面接日程の希望はありますか。
 B S 隊長 それでは班長会議翌日の日曜日の午前中に器材整理を行いますので、その後お願いします。時間的には午前 11 時から始められると思います。
 団委員長 わかりました。他の隊はなにかありますか。
 BVS 隊長 先ほどお話ししました、再来月西谷公園の裏山で秘密基地作りを行うプログラムですが、隊指導者と補助者だけでは安全面に不安がありますので、団委員長とお二人ほど危険箇所の管理にだけわけていただけないでしょうか。
 団委員長 秘密基地作りとなると山陰に入ること考えられますね。わかりました。来週の団委員会で皆さんに相談してみます。具体的にどのような場所が危険箇所か、何をしたらよいかなど計画書に書き込んでおいてください。
 R S 隊長 その日はすぐ近くでローバースカウトが集会をするのですが、応援の必要な時間帯は何時からですか。
 BVS 隊長 午前 9 時から 11 時までの 2 時間です。
 R S 隊長 ローバーの集会は 11 時からですから、何人か早めに来させて協力するように言ってみましょうか。団委員長とローバーの二人一組でやった方がいいでしょうか。
 BVS 隊長 それは助かります。団委員長よろしいですか。
 団委員長 そうですね。それなら新しい団委員長も安心してお手伝いできるでしょう。
 C S 隊長 カブ隊からお願いなのですが・・・夏のキャンプに向けて器材を少々購入したいのですが。
 団委員長 何か不足していますか。
 C S 隊長 先日団倉庫を確認したところ、大鍋に穴が開いたまま格納されていて・・・カブ隊で最終日に開鍋しようと思っていたのですが、使えないので一つ購入してくれませんか。
 団委員長 そうですか。長い間使っていませんでしたからね。いくらくらいするものなのでしょうか。
 V S 隊長 もう同じものは売ってないと思います。よく似たもので 1 万円くらいでしょう。
 団委員長 他の隊でもお使用になる可能性はありますか。
 B S 隊長 存在すら忘れていた鍋ですからね。ボーイ隊では使うことはないと思います。
 V S 隊長 あれば使うかもしれません。約束できませんけど・・・。
 BVS 隊長 まあ大鍋の一つくらい団で持ってもいいでしょう。
 団委員長 さっそくカブ隊が使われるならボーイ隊も何か考えてみましょうかね。
 R S 隊長 まあまあ、鍋のために活動するわけではないですから・・・。
 R S 隊長 文化祭やバザーなどで模擬店を出すときなどにも使えるでしょうから、購入する方向で検討していただければどうですか。
 団委員長 団の備品購入予算はどうなってるんですか。
 団委員長 今年はほとんど使ってませんね。他の隊で他に器材購入を希望されるものはありますか。
 BVS 隊長 ビーバー隊は特にありません。
 B S 隊長 夏季キャンプまでに鈍を 2 丁ほど新調したいのですが、4 千円ほどです。

団委員長 わかりました。それでは大鍋 1 万円と、鈍 4 千円ですね。
 R S 隊長 次の団委員会で承認を得られるようお話をしてみます。他に何かありますか。
 V S 隊長 ああ、一つ忘れていました。ローバースカウトの B 君をボーイスカウト講習会に参加させたいのですが、確か 10 月 8 日でしたよね。その日なら参加できると本人が言っていますので。
 団委員長 B 君がもう講習会ですか。月日が経つのは早いんですね。10 月 8 日に隣町の公民館で開催されますよ。
 R S 隊長 それではぜひ参加するように言います。ところで団から参加費は補助が出ましたよね。
 団委員長 加盟員の場合は参加費に限り団が全額負担します。
 R S 隊長 わかりました。団委員長、参加申込しておいていただけますか。
 団委員長 はい、参加費も納入しておくよう指導者養成担当の団委員長さんをお願いしておきましょう。団委員会も反対はないでしょう。RS 隊長は B 君に受講の心構えなど指導しておいてくださいかね。
 R S 隊長 承知しました。

以上

審査・面接一覧



① 団会議で協議すべきもの	② 団委員会に報告するもの	③ 団委員会で協議すべきもの

団面接の一例

1. 開会の辞(司会)
「ただ今より、日本ボーイスカウト〇〇第〇〇団ボーイ隊の進級面接を行います」

2. 国旗敬礼
「国旗に正面・礼・直れ」

3. スカウトサイン(司会)
「おきて唱和」(全員で)
(面接を受けるスカウトは一旦退室し、順次個人面接を受ける)

4. スカウトの紹介
(隊長とスカウトが共に並び、隊長より紹介する)
「本日面接を受ける〇〇君を紹介します
〇〇君は.....であります
〇〇章の考查課目のすべてを合格しておりますので、〇〇君の面接をお願いします」

5. 面接委員の設問
(1) 主として進歩関係.....団委員長、他の隊長
(2) 主として生活態度.....育成会長、団委員、地区役員など
※決して再考査でなく、業績をたたえ、次の進歩への激励であること。

6. 認 証 (団委員長または副団委員長が行う)
「以上の面接の結果、〇〇君は〇〇級スカウトとして十分な実力があることを認めます 〇〇君、おめでとう 今後もしっかりがんばって、さらに〇〇級へ挑戦してください」
(スカウト全員、面接会場へ入る)

7. 激励の言葉

8. 国旗敬礼
「国旗の正面・礼・直れ」

9. スカウトサイン(司会)
「おきて唱和」(全員で)

10. 閉会の辞(司会)
「以上をもちまして、日本ボーイスカウト〇〇第〇〇団ボーイ隊の進級面接会を閉会します」

※面接委員回礼(スカウトへの賞賛の言葉を添えて一人ずつ握手)

注) この書式はカブ、初級、2級、1級章に使用する。

カブ 初級 2級 1級		進級面接 申請書 (例)		ボーイスカウト 第 年 月 日 隊	
団委員長様		隊長 印		ボーイスカウト 第 年 月 日 隊	
〇教育規程7-33による考査の結果、 認証と進級記章交付を申請いたします。 〇教育規程7-41によりカブスカウト()の記章交付を申請します。		初級		印	
〇教育規程7-33による考査の結果、 認証と進級記章交付を申請いたします。 〇教育規程7-41によりカブスカウト()の記章交付を申請します。		2級		印	
〇教育規程7-33による考査の結果、 認証と進級記章交付を申請いたします。 〇教育規程7-41によりカブスカウト()の記章交付を申請します。		1級		印	
氏名	住所	年齢	年齢	年齢	年齢
学 校	住 電	年 齢	年 齢	年 齢	年 齢
“やくそく”をした日		年 月 日	場 所	進 進	
“ちかい”をたてた日		年 月 日	場 所	場 所	
進 歩 記 録		上		進	
ビーバー入隊	・	入 隊	BVSからCSへ	第 団	隊から
り す	・	仮入隊	CSからBSへ	第 団	隊へ
う さ ぎ	・	完 修	BSからVSへ	第 団	隊から
し か	・	完 修	移	第 団	隊へ
く ま	・	完 修	年 月	第 団	隊へ
月 の 輪	・	完 修	年 月	第 団	隊へ
ボーイスカウト	・	仮入隊	年 月	第 団	隊へ
初 級	・	進 級	役 務	第 団	隊へ
2 級	・	進 級	歴	第 団	隊へ
1 級	・	進 級	期 間	第 団	隊へ
菊	・	進 級	・	第 団	隊へ
年月日	訓練の名称	役 務	・	第 団	隊へ
・	・	期 間	・	第 団	隊へ
・	・	・	・	第 団	隊へ
・	・	・	・	第 団	隊へ
・	・	・	・	第 団	隊へ
表 彰	年 月 日	事 項	年 月 日	事 項	年 月 日
・	・	・	・	・	・
上記スカウトの面接を終了したので報告します。					
年 月 日 面接委員会委員長 印					
面接委員					

進級面接質問の一例

面接の実施、準備に当たった時の留意点は数多くありますが、特に次の点に気を付けてください。

- * 審査を受けた結果を踏まえた面接であることから、再審査とならないようにするとともに、努力を認める質問（確認）を行う。
- * 和やかな雰囲気を作り、最初の質問は答えやすい内容、順序などの配慮を行う。
- * 面接を受けるスカウトの個性、特徴について予め隊長より報告を受けておく。

生活面に関する質問（〔 〕は質問のねらいを示しています）

1. 氏名、団名、隊名、班、役務をたずねる
2. 家庭生活の状況をたずねる [スカウトの家庭内での協力が大切であることを考えさせる]
 - (1) 君の兄弟は何人ですか、何番目ですか
 - (2) 兄弟（姉妹）げんかをお願いしますか。その時お父さんやお母さんは何と申しますか
 - (3) 君のお父さん、お母さんの仕事を知っていますか
 - (4) 君の家庭での仕事（分担）は何ですか
 - (5) お父さんお母さんはスカウト活動についてどう言っていますか
 - (6) 君はスカウト活動のことを家族に話していますか
 - (7) 君の宗教は何ですか

3. 学校生活の状況をたずねる [学校生活をどう過ごしているかを知り激励する]

- (1) 君の学校、学年を教えてください
 - (2) 学校生活は楽しいですか
 - (3) 一番得意な科目は？また嫌いな科目は？その理由は？
 - (4) クラブ活動は何をしていますか？
 - (5) クラブ活動が終わって何時頃家に帰りますか
 - (6) 塾に行っていますか
 - (7) 学校の先生は君がスカウトであることを知っていますか
 - (8) 君の友達は何がスカウトであることを知っていますか
- 中学3年生
- (9) どこの高校に進学したいと思っていますか、またその計画は？
- 高校生

- (10) 高校生活はどんなものですか
- (11) 将来の人生設計（高校～大学～社会）はどう考えていますか

※「スカウト活動と学校生活との両立ができていく者が多い中で、君はよく頑張っていますね」・・・大いに激励してほしい

4. 個人生活の状況をたずねる [スカウト一人一人がどんな個人生活をしているかを知る]

- (1) 自分の長所・短所と思うものは何ですか
 - (2) 短所と思うことについて、どうしたら良くなるかを考えたことがありますか
 - (3) 君の趣味・特技は何ですか
 - (4) 親しい友達がいいますか、どんな友達ですか
- ※「親しい良い友達を作ることは大切です。これからも良い友情を育ててください」

5. 社会生活の状況をたずねる [地域社会の中でスカウトが生活していることを知らせる]

- (1) モットー「日々の善行」とありますが、君はどんなことをしていますか
- (2) 他人の善行で感動したことがありますか
- (3) 学校生活が終わって社会人になったら君は何をしたいですか
- (4) そのためにどんな準備をしていますか
- (5) ボランティアという言葉を知っていますか、それについてどう思いますか

進級課題に関する質問（〔 〕内は進級のねらいを示しています）

1. 初級進級課題に関する質問 [スカウトの仲間として認められる]

- (1) カブ隊からボーイスカウト隊に来たために誰が指導してくれましたか
- (2) 初級スカウトになるために誰が指導してくれましたか
- (3) ちかい、おきてをおぼえましたか
- (4) 君が毎日の生活の中で実行していくことですから常に頭に入れておいてください。
- (5) 君がボーイスカウト隊でどんな活動をしたか
- (6) 初級スカウトとなることは、スカウトの仲間として認められることです。これからは、自分ごとが自分でできるよう2級課題に進んで挑戦し、集会やハイキングの中で大いに頑張ってください

2. 2級課題に関する質問 [自分のことが自分でできる]

- (1) 君はスカウト活動をどう思いますか
 - (2) 今までの活動で楽しかったことは
 - (3) 一番苦しかったことは
 - (4) 進級課題の中で「ちかい」と「おきて」の実行に努力するとありますが、君がどのように努力しているかを教えてください
 - (5) 2級の技能の中でむずかしかったのは何ですか、また、どのように勉強しましたか
 - (6) 2級の審査課題の中にハイキング技能がありますがどうでしたか
 - (7) キャンプは好きですか
 - (8) これから1級スカウトへの挑戦となりますが、君はどんな計画をもっていますか
- ※「2級スカウトは、自分のことが自分でできることです。今度は自分のことができると同様に他の人も助けることが必要です。それと同時に、キャンプのルールも守る人にならなければいけません。大いに頑張って1級スカウトに早くなれるよう努力してください」

3. 1級進級課題に関する質問 [自分のことが自分でできると同時に他人の人を助ける]

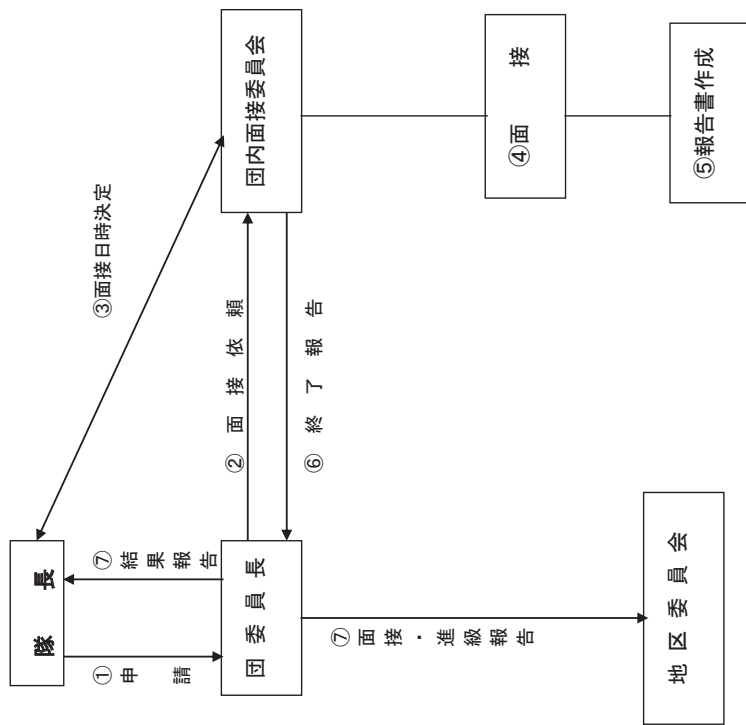
- (1) 君は今までスカウト活動を続けて来たわけですが、君にとってスカウト活動はどんなものを与えてくれましたか（ここで、ボーイスカウトの目的を再認識させる）
 - (2) 審査課題に、毎日の生活の中で「ちかい」と「おきて」を実行して努力するとありますが、君はどのように実行努力してきましたか
 - (3) 1級の審査課題の中にキャンピング技能がありますがどうでしたか
 - (4) 今後、どのような選抜課題に挑戦したいですか
 - (5) カブ隊のデモンストラをしたと思いますが、感想はどうでしたか
 - (6) 君は、班長（次長）ですね。班集会や隊集会などで班の仲間達はどうですか。困ることはありますか
 - (7) スカウト活動のプログラムの中で、もっともよかったことは何ですか
 - (8) 今までのスカウト活動の中で、楽しかったこと、苦しかったこと、悲しかったことなどがあつたと思いますが、話してみてください
 - (9) これからのスカウト活動の計画を教えてください
- ※「これからは菊スカウトに挑戦することになりますが、菊スカウトになるにはボーイスカウトの目的にあるように、自発活動でスカウト精神、健康、技能、責任を体得し、人間性を養わなくてはなりません。ボーイスカウトの総仕上げとも言えるべき菊スカウトになるようぜひ頑張ってください」

4. ベンチャー進級課題に関する質問 [ベンチャースカウトの仲間として認められる]

- (1) 君はベンチャーパトロールの時に今の高校に入るために努力をしましたか、結果はどうでしたか
 - (2) ボーイスカウト運動の創始者ペーデンパーヴェルはどんな人ですか
 - (3) ちかい・おきての実践について、どのように努力していますか。そして心がまえを述べて下さい
 - (4) 日常生活の中で、健康と安全にどう心がけていますか
 - (5) ベンチャー一草取得のためのソロキャンプはどうでしたか
 - (6) ベンチャースカウトとして、君はどんなことをしてみたいですか。今後の計画を教えてください。
- ※「高校生となって、これからベンチャースカウトとして活動することになりませんが、一段と進歩に心がけて下さい。富士スカウトになることがベンチャースカウトして、一人前になることです。から、技能章の挑戦計画をはっきりと定め、ぜひ富士スカウトとなつてほしいと思います。頑張ってください」

初級・2級・1級スカウト章面接手順（一例）

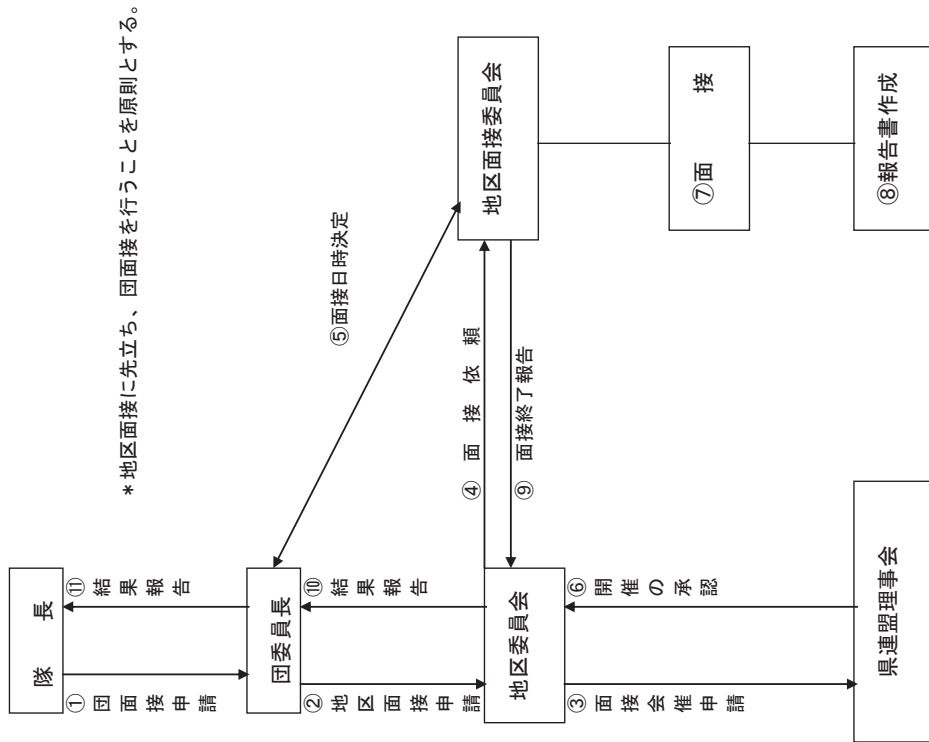
※初級・2級・1級スカウト章の面接の手順を以下に示します。県連盟・地区によっては異なる手順によって実施されていますので、一例としてご理解ください。



- (1) 隊長からの申請および面接終了報告には、次頁の様式を使用する。
- (2) 面接の手順は図の番号順に行う。
- (3) 面接終了後、隊長は団委員長に記章交付の申請する。
- (4) 担当団委員長は記章授与式までに必要な記章を準備する。
- (5) 進級章は各隊での授与式でスカウトに授与する。

菊・隼スカウト章面接手順（一例）

※菊・隼スカウト章の面接の手順を以下に示します。県連盟・地区によっては異なる手順によって実施されていますので、一例としてご理解ください。



* 地区面接に先立ち、団面接を行うことを原則とする。

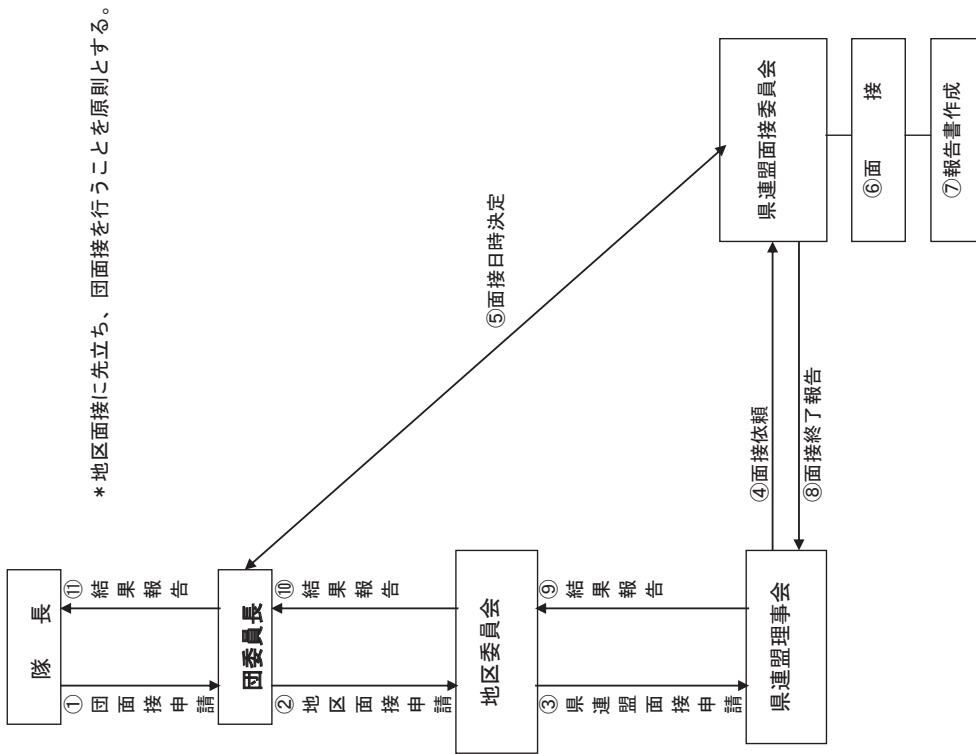
- (1) 面接の手順は図の番号順に行われる。
- (2) 面接終了後、団委員長は所屬地区を通じ県連盟に記章の交付と進級証の発行を申請する。
- (3) スカウトへの進級記章の授与は、地区の主催する授与式で行うことを原則とする。
- (4) 進級章の授与は県連盟長の名をもって行われる。

安全計画

プログラム内容	想定される災害	安全 教育	安全 対策	安全対策内容	団委員会の支援

富士スカウト章面接手順（一例）

※富士スカウト章の面接の手順を以下に示します。県連盟・地区によっては異なる手順によって実施されていますので、一例としてご理解ください。



- (1) 面接の手順は上記図の番号順に行われる。
- (2) 面接終了後、団委員長は地区・県連盟を通じ日本連盟へ富士スカウト章の交付と進級証の発行を申請する。
- (3) 富士スカウト章の授与は、日本連盟理事長の名をもって行われる。
- (4) スカウトへの進級証授与は、県連盟の主権する授与式で行われることを原則とする。

読図ハイキング実施要項(案)

1. 1週間前に、隊指導者と上級班長とで現地下見に行きます。
2. 風雪、低温、路面凍結が想定されますので、**転倒防止に十分注意して歩かせます。**
3. 危険箇所については出発時に注意を喚起します。
4. 歩行は、パトローリング隊形を原則とします。
5. 班長訓練を通じ、記録のとり方、地図とコンパスの使い方、手旗信号、パトローリング等の訓練や指導を行います。

【団員委員会への依頼事項】

1. **車両を2台準備してください。伴走方法は現地にて説明します。**
2. **車両は、緊急車両としても使う予定です。**
3. それぞれのCPでは、スカウトに見つからない位置で待機してください。
4. **安全対策のため、必要ところへの連絡をお願いします。**
5. チェックポイント(CP)としてお借りする施設・土地の所有者に連絡して許可をもらってください。

集合場所・・・岩城少年自然の家前広場

CP1・・・旧家「黒澤家」

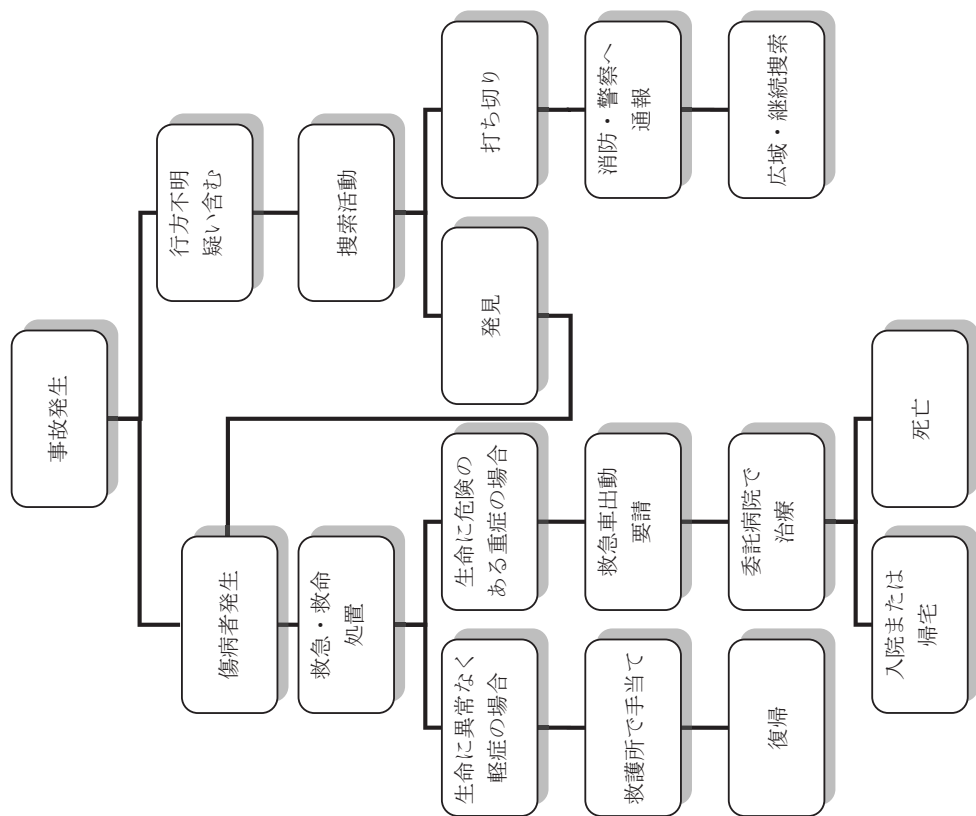
CP2・・・三角点「55. 2m」

CP3・・・岩見ダム管理事務所

CP4・・・天鷲寺(亀田城主菩提寺)

解散場所・・・亀田城跡管理事務所前広場

事故対策図



支援要請の項目	支援要請の概要	当日までの行動予定	準備担当者	当日の行動予定	当日の担当者

ハイキング支援計画

物的支援	人的支援	資金的支援	その他の支援	担当者	具体的な内容	いつまでに 行うのか

§ 1.4 解決への目標の設定

問題・課題	解決への目標
(例) 実修所などへの研修参加意識が低い。	(例) B S隊長とC S隊長には、研修の重要性を理解してもらい、各実修所への参加を促進し、プログラムの改善を図る。 【指導者養成】

§ 1.4 団の年間計画作成資料

前年度の団事業の状況及び問題点

前年度の状況	問題点
<ol style="list-style-type: none"> 1 団の総会へ出席する保護者の数が減少している。 2 ビーバースカウトが隊集会で怪我をした。安全対策が不十分 3 募集活動（ポスター・チラシ・ロコミ等）をしても、ビーバースカウトの確保が難しい。 4 ビーバースカウトからカブスカウトへの上進率が50%と少ない。どうも保護者がデンリーダーになるのを嫌がっているらしい。 5 ポースカウトの中途退団が4名（クラブや塾と並立できないとの申出あり）発生した。その結果BS隊員は9名となったし、1級スカウトもいない。 6 カブ、ボーイのプログラムが楽しくないという保護者の声がある。 7 15N J以降もBS隊では4泊以上の長期キャンプを実施したいが、指導者・スカウト共に難しい。（仕事・クラブ等） 8 特にBS隊以上でプログラムのマンネリ化が見られる。 9 ベンチャーへの上進率が50%を切っている。 10 女子スカウトが増加してきたが、女性指導者の確保が難しい。 11 各隊共、常時参加できる副長が極めて少なく、高齢化している。 12 技能章の考査に指導者が対応できず、取得者が少ない。 13 カブ、ボーイの各隊長に実修所参加を要請したが、参加しなかった。 14 テントが破損しキャンプに苦労した。団倉庫が狭くなり、出し入れが不便、探すのにも大変である。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 保護者との関わり、交流が少ない。 2 地域等周囲との交流が無く、地域の関心も低い。 3 入隊者が少なく、中途退団も多い。募集活動を再構築する必要がある。 4 進歩・進級にスカウトも指導者も熱心ではない。 5 組集会や班集会・班長会議がほとんど開かれていないためプログラムプロセスの運用がなされていない。 6 隊長中心に活動計画が立案されているため、プログラムに偏りがあり、マンネリ化が見られる。 7 実修所などへの研修参加意識が低い。 8 指導者の高齢化が進み、若い指導者や女性指導者を養成できていない。 9 仕事のためか隊活動のためか分からぬが、ラウンドテーブルへの参加率が低い。 10 備品管理の担当がいなく、隊長らが整理するようになっているが、杜撰な備品管理状況である。

§1.4 団の事業計画

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
団事業等												
日連事業 県連事業								WB研修所CS課程	WB研修所BS課程 WB実修所BS課程	県連盟総会		WB実修所CS課程
地区事業	BS講習会	カブラリー	安全セミナー		BS講習会	BP祭	安全セミナー		BS講習会	ボイ技能大会 地区協議会		
各隊活動	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月
BVS												
CS												
BS												
VS												
RS												

§1.4 解決の目標を達成するための事業計画

解決への目標(WS1から転記)	具体的な事業(行動)計画	行動の時期	担当者	活用するリソース(県連)	活用するリソース(地区)	活用するリソース(その他)

団でスカウトの募集を定期的に行うことになりました。グループ(団委員会を想定して)で話し合いながら、有効な方法を考えてください。

募集のターゲットは誰か	どうやって広報するのか	どういった方法で行うのか	準備期間はどれだけ必要か	どのような準備(品)が必要か	協力者にはどんな人がいますか
<p>◆団本部から半径5km内に存在する、すべての幼稚園年長組と小学校1～3年生。</p> <p>◆現在団に所属しているビーバースカウト、カブスカウトが通学する小学校の1～3年生とその付近の幼稚園年長組。</p> <p>◆団が所属する行政区にあるすべての幼稚園と小学校1～3年生。</p>	<p>・スカウトや保護者を通じてチラシを配布する。</p> <p>・教育委員会を通じて対象とする学校にチラシを配布する。</p> <p>・幼稚園を一軒一軒回ってチラシ配布をお願いする。</p> <p>・フリーペーパーを活用する。</p> <p>・地域限定ラジオ局に広報を依頼する。</p> <p>・地元新聞の無料広告欄に掲載する。</p> <p>・募集のポスターをスーパーや商店街、病院や薬局等に張ってもらうように依頼する。</p> <p>・募集のポスターを学校や公民館等の掲示板に張ってもらうように学校や公民館等に依頼する。</p> <p>・募集のポスターを各家庭の玄関先等に掲示してもらうようにする。</p>	<p>・公民館等での説明会</p> <p>・公園等を使つての体験活動</p> <p>・一日入隊体験</p>	遅くとも3か月前から始動	<p>・ポスター(日本連盟発行物等)</p> <p>・チラシ(印刷から配布まで)</p> <p>・パンフレット(日本連盟発行物等)</p> <p>・各隊のプログラム</p> <p>・必要経費一覧表</p> <p>・活動に必要な準備品リスト</p> <p>・指導体制の充実度</p> <p>・教育のねらいを説明した印刷物</p> <p>・場所の確保、借入手続き</p> <p>・体験活動に必要な物品(火起器、ロープ、テント、シュラフ、縛材、救急セット、他)</p> <p>・各地のプログラム調整</p>	<p>・育成会</p> <p>・団委員会</p> <p>・BVS隊</p> <p>・CS隊</p> <p>・BS以上の隊</p> <p>・保護者会</p> <p>・地元のメディア関係</p> <p>・教育委員会、生涯学習課</p> <p>・幼稚園</p> <p>・小学校</p> <p>・地域の商店</p> <p>・地域の病院、薬局</p> <p>・公民館、コミセン</p>

団でスカウトの募集を定期的に行うことになりました。グループ(団委員会を想定して)で話し合いながら、有効な方法を考えてください。

募集のターゲットは誰か	どうやって広報するのか	どういった方法で行うのか	準備期間はどれだけ必要か	どのような準備品が必要か	協力体制の範囲はどこまでか

団委員研修所
所員用ハンドブック (令和4年度版)

令和4年 月 日発行



公益財団法人

ボーイスカウト日本連盟

〒167-0022

東京都杉並区下井草4-4-3

電話：03-6913-6262

ファックス：03-6913-6263

e-mail：training@scout.or.jp
